

# 同窓会報

No.26



豊橋技術科学大学



30周年記念事業陸上競技場用照明灯



30周年記念事業学生交流会館

2009



# 大学新執行部のご紹介

## ごあいさつ

豊橋技術科学大学 学長  
(豊橋技術科学大学同窓会名誉顧問)

### 榎 佳之

私は本年4月より学長に就任いたしました榎 佳之です。新任として先ず自己紹介をさせていただきます。私は生命科学を専門としています。東京大学理学系大学院生物化学専攻を修了後、カリフォルニア大学、三菱化成生命科学研究所、九州大学、東京大学、理化学研究所と様々な研究機関に勤務しましたが、一貫して遺伝子の研究に携わり、1991年からはヒト全遺伝子の解読を目指す国際ヒトゲノム計画の日本の代表を務め、2003年に解読を完了しました。着任前は理化学研究所ゲノム科学総合研究センター長を務めておりました。このように生命科学を専門とする私が工学系大学の学長に選ばれるのは意外であると思われる方が多いと思います。私もはじめに候補者としてお話をいただいた時にはそう感じました。しかしお話を伺ってゆくと、最近の工学は医工連携、農工連携など生命科学との結びつきを強めており、私にはその橋渡し役、先導役を期待されていると理解しました。もう一点、私の父が本学の初代学長である榎 米一郎であり、本学に創立時代からおられる先生方が私をご存知であったことも関係していると思います。私も本学を設立当時から知っており、特別の親しみをもっておりましたので、ご指名いただいたときは特別のご縁を感じました。学長就任後まだ半年しか過ぎておりませんが、ここでは本学の最近の様子や今後の方向性について



で、私の思いや感じたことなどを加味しながらお伝えしようと思います。

まず本年度で終了いたします開学30周年記念事業への同窓会の皆さまからのご協力に御礼を申し上げます。同窓会員、在学生保護者、企業、教職員などからの寄付金は1億円を超え、同窓会としてグラウンドの夜間照明灯の設置をしていただきましたが、そのほか学生交流会館の開設、学生宿舎全室にエアコンを整備するなど通常の予算では手当しにくい学生支援事業も手掛けることができました。そのほかに本学と関連の深い企業からは寄附講座の開設や記念の共同研究などをしていただき、研究面でも大いに活性化されております。“国立大学”は財政的に厳しい状況に置かれており、研究活動は外部資金を獲得しなければ進められない状況になりつつあります。そのような中でのご支援はまことにありがたく、教職員一同深く感謝いたしております。

さて、本学関係者にとりまして最近の最も嬉しいニュースの一つはロボコン同好会の活躍です。すでにNHKでも放映されましたのでご存知の方も多いかと思いますが、今年の国内大会では東大、名工大、早稲田大を破り全国優勝、さらにインドでの世界大会でも3位に入る健闘ぶりでした。成績はもちろんです。放映された番組に出た学生諸君のまっすぐで清々しい姿、インドへの輸送中に紛失した車輪をとっさの判断でボードから手作りした技、危機対応能力、熱意は多くの人々に印象的であり、「感動した」、「日本の若者も頼もしい」、「豊橋技科大の教育は素晴らしい」等々の賞賛の言葉を全国からいただきました。本学の名が全国に知られることとなり、入学希望者が一段と多くなることと思います。

話は変わりますが、現在の本学の最大の課題は平成22年度から始まる第二期の中期計画（6カ年）の策定です。大学予算の削減の続く一方で、各大学にはおのおのが社会の中で果たすべき役割を明確にすることが求められています。本学は高等専門学校出身者を中心により高度な指導的技術者を育てるという明確な使命を持っており、これまでに優れた人材を世に送り出して日本の繁栄に貢献してきました。今後もこの基本的方向は変わりませんが、激しい国際競争のグローバル化時代の中で、求められる人材、発展すべき技術もかわりつつあります。現在学内で検討中ですが、今後の社会の方向を見据え、(1)日本の産業競争力、特に日本が強いものづくり産業を支える高度な技術者の養成と先端技術開発研究、(2)環境問題など持続的社会的構築に求められる次世代技術の開発研究とそれを支える人材の養成、(3)アジアを中心に世界に開かれた大学、を3つの柱にして本学の方向性をより具体的に示す計画を立てつつあります。本学では世界に誇るセンシング技術や微細加工技術、IT農業研究など特色ある研究、技術開発が進んでおります。それらの特色を生かしながら“世界のTUT”を目指したいと思っております。

同窓会の皆様からも一層のご理解とご支援をいただきたくよろしくお願いをいたします。

豊橋技術科学大学 理事副学長

稲垣 康善

今、世界は歴史の大きな転換点に立っていると思います。わが国もその域外にあるはずはありません。本学も、この変化に適応し新しい時代にいきいきと活躍できる大学を実現すべく、全学再編に取り組んできているところです。技術科学に飛躍的な進歩をもたらす大学、国際的に活躍できる大学、社会に貢献し信頼される



大学を目指しています。そして高度の技術科学の知識と問題発見解決能力を有し、新しい時代を先導する指導的技術者の育成を目指しています。

この改革を生命科学と工学の融合を柱に強力に推進しようとされている榊学長に招かれ、この4月に、理事・副学長として着任いたしました。本学で働くことができる機会をいただけたことは大変光栄に存じています。

その揺籃期からこれまで、情報科学分野の、特にコミュニケーションとコンピューテーションの基礎を支える理論の分野で、名古屋大学を中心に研究教育に携わってきました。その間、名古屋大学工学研究科長・工学部長、愛知県立大学情報科学部長・同研究科長も務めました。名古屋大学では、情報科学研究科の創設、愛知県立大学では大学法人化に伴う、情報科学部・大学院研究科の改組にも携わりました。

これまでの経験を生かし、本学発展のためにいささかでも貢献できるよう、尽力いたしたく存じています。どうかよろしくご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

豊橋技術科学大学 理事副学長

神野 清勝

同窓生の皆様、2008年4月より、理事・副学長（教育担当）を勤めることになりました神野です。教育に加えて、再編、国際交流も担当しています。1978年4月に本学が、学生さんを受け入れたと同時に物質工学系助教授として、東芝総合研究所から赴任しました。豊橋技術科学大学の30年の歴史をずっと見てきた数少ない教員の一人です。名古屋大学の大学院博士課程で、放射化学分析法の研究をし、東芝では集積回路研究所で、リソグラフィーの技術開発研究をしてきました。本学では、分離科学、特にクロマトグラ

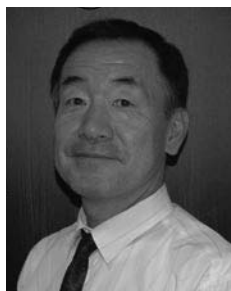


フィーの分離機構の化学的な解明、分子動力学計算による分離過程のシミュレーション、構造保持相関による保持予測などの基礎的な研究に加えて、分離分析システムのマイクロ化と複合システム化という開発研究にも力を注いできました。近年、18歳人口の減少、高校生の理科離れ、工学離れに加えて、高専の専攻科の充実など本学には、多くの難題が山積しています。諸問題をひとつずつ確実に解決し、本学が小粒ながらきらりと光る素晴らしい大学となるように微力を尽くしてゆきたいと考えております。皆様のご助言、ご助力をお願いして自己紹介とご挨拶とさせていただきます。

#### 豊橋技術科学大学 理事・事務局長

#### 河野 正 俊

本年4月より、理事（総務・財務担当）をも勤めることとなりました事務局長の河野（カワノ）です。理事としての担当を総務・財務としてはありますが、事務局の8つの課（総務、会計、研究協力、施設、学務、学生、入試、国際交流）をその守備範囲としていますので、直接には大学の教育研究に関与しないで、その支援の全般を担当しているとしたら分かっただけでしょうか。本学には、ちょうど開学30周年にあたる2006年10月に大阪大学より赴任しております。執行部の一員として、近時の国立大学法人化のメリットを活かしつつ、大学の基礎体力ともいえる学内環境整備等に力を注いでいきたいと考えております。同窓生の皆様には、この開学30周年の記念事業にご協力いただき、お陰をもちまして昨年学生交流会館や陸上競技場の照明灯が完成しました。このほか、来年3月には、学内のメインの建物の増築・改修が完了するとともに、学生宿舎の新築等も出来上がる予定です。どうかお時間がありましたら、母校へお立ち寄りいただき、できればアドバイ



ス、ご助言等をお願いしましてご挨拶とさせていただきます。

#### 豊橋技術科学大学同窓会会長

#### 今 泉 敏 幸 (1系1期)

同窓会会長をお引き受けしてから、早くも一年が経ちました。その間、大学のホームページで紹介されているとおり、グローバルCOEプログラムに「インテリジェントセンシングのフロンティア」が採択されたり、国内の大学ロボットコンテストで優勝、ABUアジア・太平洋ロボットコンテストでは3位になる等、うれしい話題に恵まれました。



また、2008年4月から、榊佳之新学長のもと新しい体制での大学運営が始まっています。同窓会としましては、豊橋技術科学大学がより活躍・発展できるように、引き続き、協力・支援を惜しまない所存であります。

さて、2008年度は一期生が入学した1978年から数えて30年目にあたり、30周年記念事業の最終年度になります。昨年は同窓会報の紙面をお借りして記念募金のお願いをさせていただきましたが、皆様の寄付のお陰で無事にグラウンドに照明設備を設置することができました。今年度も引き続き同窓会として募金活動を推進し、ロボットコンテスト等で在校生が一層活躍できるように支援していきたいと思っています。申し訳ありませんが、よろしくご協力のほどお願い致します。

最後に、サブプライムローン問題を起因とした米国の金融危機の影響を受け、景気は一段と減速し、長期化も懸念されています。このような困難な状況下にあっても、皆様方、それぞれの持ち場・立場でご活躍されることをお祈りして私のご挨拶とさせていただきます。

# 第一工学系

## 機械システム(旧エネルギー)工学系より

### 学内近況報告

機械システム工学系 関下 信正

本学をご卒業された皆様におかれましては、ご健勝のことと存じます。機械システム工学系では、2008年3月～4月の年度替わりに教員の異動がございました。三田地先生と蒔田先生が2008年3月でご定年退職されました。両先生におかれましては、本学の研究・教育のために長い間ご尽力いただき、感謝しております。また、4月に飯田明由先生が教授として工学院大学から赴任されました。山本高久先生が神戸高専へ栄転されました。

学生の就職状況につきましては、2008年10月の世界的な金融不安前でもありましたので、2008年度も大企業および優良企業に就職する学生が沢山おり、1990年代のバブル経済の頃と同様なほど良好でした。特に、有名大企業以外は、優秀な人材を確保することが難しいようで、熱心に大学ヘリクルートに来ておりました。沢山の企業から本学の学生を求めて求人に来ていただけるのは、卒業生の方々が社会で活躍されているからでありまして感謝にたえません。なお、本年も多数の卒業生の方々がリクルータとして本系を訪問して下さり、在校生にとっては先輩の生の声が聞ける貴重な機会となっておりますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

昨年の同窓会報でもお伝えいたしましたが、一昨年に日本技術者教育認定機構(JABEE)の審査を受けた結果、2007年5月に本系の教育プログラムがJABEEに認定され、現在、それに従って教育が行われております。今後、何人かの卒業生の方にはアンケートをお願いするなど、同窓生の皆様にもご協力いただくこともあろうかと思いますが、よろしくようお願い申し上げます。実社会のニーズに対して本系の教育プログラムを改善していくためには本系の教育を体験され、社会の第一線で活躍されている同窓生の皆さんからのご意見などを頂くことが効果的であると思います。本系では今後も継続的に教育プログラムの改善を続けてまいりますので、引き続き皆様のご支援とご協力をお

願いたします。新聞紙上で世界的な不況不安が毎日報道されておりますが、卒業生の皆様におかれましてはご健康で、それぞれの職場でご活躍されることを願って近況報告とさせていただきます。

#### [第一分野：熱・流体工学分野]

教授：日比昭、北村健三  
准教授：中川勝文、柳田秀記、鈴木孝司  
助教：伊藤高啓、光石暁彦

#### [第二分野：エネルギー変換工学分野]

教授：高木章二、野田進(系長)、飯田明由  
准教授：鈴木新一、関下信正、内山直樹  
助教：佐野滋則、名田譲

#### [第三分野：機器設計学分野]

教授：本間寛臣(工学教育国際協力研究センター)、  
上村正雄、河村庄造(未来ピークルセンタ)  
准教授：感本広文  
講師：竹市嘉紀  
助教：グナワン・フェルギアント・エフェンデ

#### [技術専門職員] 徳増学、神谷昌宏

#### [事務] 永田千尋、野亦真理子

## 第一工学系同窓会事務局より

### H19年度収支報告

収入の部	
前年度繰越金	¥4,969,194
終身会費(前年度入会者計56名分)	¥560,000
利息(定期預金利子+普通預金利子)	¥4,644
収入合計	¥5,533,838
支出の部	
会報発送関連費	¥138,950
アルバイト代	¥20,000
次年度への繰越金	¥5,374,888
支出合計	¥5,215,938

## 退職教員より

### 思い出す儘に

三田地 紘史

平成20年3月31日をもって豊橋技術科学大学を定年退職しました。近頃では（家内と共に）明治生まれの老父母の介護に悪戦苦闘しつつ、2ヶ月毎に支給される年金で糊口を凌ぐ毎日です。日ごとに知力も体力も共に衰え行く親たちを見ていると、30年後の自分の姿と重なり、何とも救い難い暗い気持ちに襲われます。このような中、非常勤講師として週1回ほど技科大に赴き、好きな工業熱力学を講義する事は私のささやかな楽しみであります。性格上とすれば家に引籠りがちですが、週1回、若い学生さんを前に大声を張り上げる事は、私自身の精神衛生上、また、健康上に良い影響を及ぼしているようです。

昭和52年の夏、榊学長の呼びかけで、赴任予定者の初顔合わせの会があり、初めて豊橋を訪ねました。会議の後、貸切バスで大学の敷地に案内され、広々とした原野を見学しましたが、建物類は一切なく、本当に間に合うのだろうかと不安を覚えました。昭和53年4月に豊橋に赴任し、無事に完成した真新しい講義室に本学1期生を迎えて以来30年、あっという間に過ぎ去りました。誠に短い30年でありました。

いま思い返すと平成5年のカリキュラム改正はひどいものでした。いわゆる「ゆとり教育」の実施で授業コマ数がかかり削減され、大学は5日制となりましたが、易きに走るは人の世の常と申します。「学生が自

主的に興味ある分野を深く研鑽できるように」との文部省の高邁なる理想とは裏腹に、我が技科大の多くの学生さんは土曜アルバイトに勤しんだようでありました。私も初めは土曜休暇に抵抗感があり出勤しておりましたが、その内に月に1回は休むようになり、まもなく2回となり、1年もすると土曜日を休まないで次週に疲れが残るようになってしまいました。

退職を自分の事として考えるようになったここ数年、大学の独立法人化対策、学科の再編成問題、技術者教育プログラムの認定（JABEE）対策、開学30周年記念行事などの緊急用事の対処に追われて忙しく過ごしたので、本来なら在職中に済まして置くべき研究課題も未解決のまま放り出す羽目になりました。このような中「自給自足型トリウム熔融塩炉の特性」を公表でき、ライフワークとしてきた「熔融塩炉によるトリウム資源の有効利用」に対する一方法を世に提案できた事は不幸中の幸いでありました。

退職して半年、いつでも自由時間を取れる事は夢のようです。現職として長時間にわたる労働を強いられる皆様には申訳ない限りです。サブプライムローンに端を発する景気減退の中、乗切のために奔走する皆様は大変だろうと思います。皆様のご健康とご活躍を心から祈っております。

## 第一系工学系同窓会 会長からのご挨拶

宮本 真志

（トヨタ自動車㈱, 1983年エネルギー工学専攻修了）

皆さん、こんにちは。世界全体の経済が余り芳しくなく、ガソリン価格の高騰のあおりを受けて工業製品や生活必需品の値上げが相次いでおり、暗いニュースが多い毎日ですが、皆さん、如何お過ごしでしょうか。同窓会報発刊にあたり、一系卒業生を代表して、一言ご挨拶させていただきます。



時が経つのは早いもので私も卒業して四半世紀が過ぎ、公私共に大変お世話になった蒔田先生も退官され、寂しい感じがすると共に、改めて時の過ぎるスピードの速さと時代の流れを感じさせられる今日この頃で

す。この会報を読んで頂いている会員の皆様も、大なり小なり同じ様な事を感じておられる事と思います。この会報に寄稿するタイミングが当社での新入社員の職場配属と重なり、この原稿を書いていると、不安を抱きながらも希望に満ちた新入社員へのメッセージを考えている毎日です。今、日本の企業の発展には、将来の人材を如何に育てるかが最大の課題と思います。この点では、日本の将来を背負って頂く学生の教育に日夜ご努力頂いている大学の先生方に感謝申し上げると共に、卒業生として重い責任を感じる次第です。卒業生からの近況報告を読んで頂き、学生の育成へのご協力をお願い申し上げます。

## 卒業生の近況報告

### 先進ブレーキシステム from Germany

川石 伸太郎

(コンティネンタル・オートモーティブ(株), 1989年エネルギー工学専攻修了)

「入社何年目ですか？」聞かれることがある、また、自己紹介の中でも伝える場面が最近増えてきた。私の場合は簡単で平成の元号年をそのまま言えば良い。’89年、平成元年に修了し、今の会社の親会社、日清紡に就職したからである。当時は、バブル景気のころ、新入社員数も最大を記録した年であった。

日清紡ではABS事業部という部門に希望して配属され、ブレーキ力を電子制御で自由にコントロールし、いざという際の事故を回避する装置の油圧部品設計を担当することとなった。バブルも弾け、このような電子制御式ブレーキがまだまだユーザーに認知されていなかった当時90年代前半は、新入社員ながら、それでも活況のあった他部門からの風当たりが強くなるのを感じ取れた非常に困難な時期を過ごすことになった。しかし、最近ではその時の困難／逆境を体験し乗り越えることが出来たことが私のバックボーンになってきていると思えるようになった。

その後ABSの爆発的な装着率upと、その発展版であるスタビリティコントロール (ESC) への進化へと、物凄いスピードで製品が発展・洗練されていった結果、日清紡は、それなりのマーケットシェアを獲得出来るに至ったが、自動車産業の国際化の波、システムの複雑化に伴う開発／生産リソース資源の共有が不可避となっていった。そのような流れの中、私は当時提携関係にあった、ドイツのTeves社へ出向となった。はずかしながら、就職活動最中、日清紡を選んだ理由の一つには純日系企業であり、外国語を使う場面は非常に限られるだろうと安易に思っていたふしがある。しかもエンジニア、英語や外国語の必要性に迫られる場面は少ないだろうと…。幸いドイツ派遣前の日本での大きな仕事がある顧客からグローバルプラットフォームのABSを日本と北米で同一仕様／品質のものを提供するとの条件での受注であったことが幸いし、当時ドイツTeves社から日清紡に派遣されていたベルギー人と共に、Teves北米の工場を使い、日清紡と共同開発した

ABSユニットの提供を実現するという業務を経験することができ、海外勤務の最低限の条件、外国語へのアレルギー除去と異文化に接するという未知の世界に飛び込む勇気が備わっていた。ドイツでの2年半は、今思えば、前半の1年半は充電の期間、残りの1年は、次のチャレンジに向けての準備の期間であった。非常に生真面目で規則に傾いたドイツ社会、一方で、決まったことしか責任を持ってやらない割り切った社会、社会全体に貫かれた、このような合理主義は、良くも悪くも言われるが、今日本に帰ってきて久しくなると、どことなく懐かしさを感じる体験になりつつある。

最後に簡単な近況であるが、2002年の年末に帰国後はABS部門を離れ、Teves社の柱の一つであるキャリパやブレーキブースタ／マスターシリンダといったブレーキ製品を日本にて開発出来る様に新たな組織造りに携わっている。ドイツ赴任の間、日清紡はTeves(現:コンティネンタル)社と日本で共同出資会社を立上げ、私もその新会社コンティネンタル・オートモーティブ(株)の社員となった。昨今の自動車業界を取り巻く環境の劇的な変化より、様々な困難を乗り越えて成長への道をスピーディに探る必要性が高まる中、日本国内と世界中を飛び回る生活は当分続きそうである。日本の家に帰宅し家族と会う瞬間の安堵感が何よりも代え難い心の拠り所である。ただ娘達も大きくなり、お土産に細心の注意が必要になってきたことはまた一つの悩みの種になってきた。





# 研究室だより

## 伝熱工学研究室

機械システム工学専攻 1年 金澤 学 郎

卒業生・修了生の皆様、各々の職場において益々ご活躍のことと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。現在、伝熱工学研究室は北村健三教授と光石暁彦助教のご指導の下、修士課程9名、学部7名という計18名の大所帯で日々研究に励んでおります。昨年度の冬より、アフリカはルワンダからの留学生1名が新たにメンバーに加わりました。

本研究室では実験班と数値解析班とに分かれて対流伝熱・乱流熱物質輸送に関する研究を行っております。実験班は「上方に断熱壁を有する水平上向き加熱円板まわりの自然対流」や「水平加熱角柱まわりの共存対流」等、数値解析班は「円形浮力噴流の乱流熱物質輸送」や「水平上向き加熱円板まわりの高レイリー数自然対流伝熱」をテーマとしております。様々な産業機器の設計において伝熱現象を正しく理解することの重要性が再認識され、また、エネルギーの有効利用が消費者にも身近な問題として叫ばれる現在、私達の行う研究が少しでも社会の役に立てる

ように、研究室一同日々試行錯誤を重ね研究に勤しんでおります。研究室の詳細についてはホームページ (<http://www.mech.tut.ac.jp/~kitamura/>) をご覧ください。

末筆ながら先輩方のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。



## 環境流体力学研究室

機械システム工学専攻 1年 渋江 佑 介

同窓生の皆様におかれましては、益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。現在、環境流体力学研究室では関下信正准教授の下で、修士課程3名、学部生4名の計7名で研究を行っております。本年度に立ち上がったばかりの研究室であるため、一から実験装置を製作したり、慣れない計測装置を使用したり、基本的な知識が欠如していたり色々な苦勞がありますが、研究室のメンバー一同、充実した研究生活を送っております。現在行われている研究テーマとしましては

- ・ 蒸気浮力噴流の秩序構造の解明では、浮力噴流を高速度カメラで撮影した実験を行っております。
- ・ 砂の飛散現象の解明に関しては、6系青木先生との共同研究でありまして、風洞測定胴床面に砂を敷詰めて、砂の飛散の挙動を調べています。
- ・ ストリートキャニオン中の熱・物質移動の解明では、現在、風洞実験用の供試物体を製作中です。
- ・ 水中推進用学習機能付インテリジェント振動翼の開発では、現在、水槽を作製しております。
- ・ 東三河における花粉の飛散予測では、大学ホームページで情報提供することができることを目指して、計算コードを開発中です。

このように、主に自然環境における流体力学について

研究を行っております。どのテーマもまだ駆け出して沢山の苦勞がありますが、少ない人数でありながら、学生それぞれで協力し合って研究を進めています。夏には渥美半島の先にある篠島へ研究室のメンバー全員で旅行に行つてまいりました。研究内容の詳細については研究室ホームページ (<http://wind.mech.tut.ac.jp/>) をご覧ください。

皆様、日々ご多忙のこととは存じ上げますが、豊橋を訪れることがありましたら、是非、お立ち寄りください。最後になりましたが、皆様の更なるご活躍、ならびにご健康をお祈りしております。



# 第二工学系

## 豊友会

-for you-

### (生産システム工学系同窓会会報)

#### 系長あいさつ

生産システム工学系 系長 清水 良明

同窓生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で多忙な時間を過ごされていることと存じます。



さて、私こと今後2年間引き続き系長として盛りたてていく旗振りの役を仰せつかっております。まずは紋切型ではありますが、前報以来の教員の異動から話を切り出させていただきます。昨年には川上正博先生の後任教授として10月に伊崎昌伸先生が、1月にOSG寄附講座の助教に野村光由先生が着任されました。また、喜ばしいことに本年1月には塑性加工研究室の安部洋平先生が講師に、4月には材料機能制御研究室の戸高先生が准教授にそれぞれ昇任されました。さらに製錬工学研究室に新しく助教として笹野順司先生を、塑性加工研究室に助手として本学の卒業生でもある前野智美先生を迎えました。このように人事の動きは活発であり、本系の諸般の活動の高さの一つの証であるといえます。

話が前後したかもしれませんが、さらに動きとえば、本年は4月から学長に榊佳之先生を迎え、新しい執行部体制の下で変革に向けたこの積年の取組みの集大成としての学内再編が最もさしせまった課題となっております。皆様には今後その成行きについて適時ご報告ができればと思っております。

さて、大学も現世と同様、不安定、非定常な流れの中で今後のゆくえを探っています。30周年の掛け声「確

かな礎から未来へ」を胸に刻んで、確かな礎を作った同窓生の皆様のサポートを頼りに本系がものづくりの中心的存在となりその学問領域において常にトップランナーであり続けられるよう努力していきたいと思っております。是非暖かい、また一面では厳しい励ましをかけて下さるようお願いします。このオリンピックでも実証されたようにプレイヤーにとってこれほどの励みになるものはありませんので… 最後になりましたが皆様のご健勝とご活躍を祈念しております。

#### [材料工学講座]

教授：伊崎昌伸、梅本 実、戸田裕之  
准教授：竹中俊英、戸高義一  
講師：横山誠二、小林正和  
助教：笹野順司

#### [生産計画学講座]

教授：清水良明(系長)、寺嶋一彦(学長補佐)、章 忠  
准教授：三宅哲夫、Batres-Prieto Rafael、三好孝典  
助教：今村 孝(研究基盤センター)、野田善之

#### [加工学講座]

教授：森 謙一郎、福本昌宏(未来ビークルリサーチセンター長)、柴田隆行  
准教授：安井利明(未来ビークルリサーチセンター)  
講師：安部洋平  
助教：川島貴弘、山田基宏  
助手：前野智美  
技術専門職員：小楠和彦、椿 正己

#### [OSG ナノマイクロ加工学講座]

柴田隆行(兼任教授)、村上良彦(准教授)、  
野村光由(助教)、堀内 幸(客員教授)、  
榊田正美(客員教授)

事務室：小坂和子、波木井真美子

(平成20年9月現在)

#### 学内近況報告

材料機能制御研究室 戸 高 義 一

同窓生の皆様には、お変わりなくご健勝にて各職場でご活躍のことと存じます。

ご報告の取り掛かりとして前回以来の教員の異動の話から始めさせていただきます。製錬工学研究室に伊崎教授と笹野助教を、寄附講座OSG ナノマイクロ加工学講座に榊田客員教授と野村特任助教を、塑性加工研究室に前野助手を新たに迎えました。一方で、2系をはじめ本学に対して長年ご尽力頂きました小林俊郎先生が3月をもちま



して定年退職されました。また、材料保証研究室小林講師が、若手研究者育成プログラムにて7月から1年間デンマーク RISO National Laboratoryで研究を行っています。2系の近況につきましては、ホームページ(<http://www.pse.tut.ac.jp/>)で随時報告していますので、ご覧下さい。

大学の近況としては、8月31日にインド・プネ市のマハラシュトラ工科大学で開催された、第七回ABUアジア・太平洋ロボットコンテストでロボコン同好会(とよはし☆ロボコンズ)がベスト4となり、「敢闘賞」、「特別賞」を受賞しました。また、9月10-13日に

静岡県小笠山総合運動公園で開催された「全日本学生フォーミュラ大会」に参加した自動車研究部(チーム名:TUT FORMULA)は、日本初のカーボンモノコックボディを採用した車両が評価されたこと等により、「国土交通大臣賞」、「ユニークデザイン特別賞1位」、「New Thinking賞1位」、「日本自動車工業会会長賞3位」、「デ

ザイン賞3位」、「静的優秀賞6位」を受賞し、総合得点で77チーム中10位となりました。

本学および本系が「ものづくり」のメッカであり続けられるよう、暖かく、また、一面では厳しい励ましをかけて下さいますよう、今後とも宜しくお願い申し上げます。

## 【退職教員より】

### 退任に当たって

小林 俊郎

私は平成20年3月で技科大を退任しました。民間に11年、名大で9.5年、技科大で25.5年の長きに渉り勤務したことになります。本来技科大の定年は65歳ですから、3年間余分に勤務したことになります。昭和57年10月から技科大に赴任しまして、平成14年3月までの20年間を生産システム工学系、平成14年4月より副学長、平成16年4月よりは法人化により、理事・副学長(研究担当)として大学全体を管理する立場となりました。平成11年4月より14年3月までは生産システム工学系長を務めましたので、そのあり方についても腐心した思いがあります。平成22年よりの改組を目指す案では、現在の1,2系が合体する形で機械知能システム工学専攻が誕生し、この中で知能生産コースが今までの生産システムを引き継ぐ構想ですが、今後の展開は現教員の議論により深められるものと思います。

私は技科大創設後6年経過して赴任していますので、本当の創設時の熱気は体験していませんが、その精神を感じることは出来ました。ある意味で東京大学を凌駕する大学を作るのだと意気軒昂に話し合ったものです。学生も高専を中心にきわめて優れた者が集まっております。技科大ができた経緯を見れば、高専卒業生の大学への門戸の開放、実学を重視した高級技術者の養成、産学連携による教育と研究の推進などが背景があったのは明らかです。それまでの日本には欠けていた視点であり、当学がその後におけるこれらの展開のモデル役を果たしたと言えるでしょう。

このような中で、特に生産にSTEM工学系は機械、材料、情報の3本柱よりなる学際的な学科として全国でも初めて誕生したと聞いております。正に工学の根幹を成す重要な領域を理解し、融合させることで新しい技術者を期待したものです。現在卒業生や企業関係者の評価を聞く限りでは、このような試みは成功していると評価してよいと思います。私自身全学を見る立場にいても、生産システム工学系は頑張っており、ユニークな成果を挙げている系として見る事が出来ます。

私自身は材料工学の担当者として、材料保証学を提唱し、教育と研究を展開しました。最初は恩師西成基先生の鑄造材料学の講座でしたが、私が赴任後に改組いたしました。助教授としては、池田徹之氏(現岐阜高専教授)、新家光雄氏(現東北大金研教授)、金憲珠氏(現韓国釜慶大学校教授)、王磊氏(現中国東北大学教授)、戸田裕之氏(現技科大教授)らの方々、助手や教務職員として、新家氏、山本勇氏(現大阪教育大助教授)、S. Seetharamu氏(インド電力中研主席研究員)、I.A. Akmoulin氏(ロシア鉄鋼学院)、金憲珠氏、井上直也氏(現トヨタ自動車主任)、森田繁樹氏(現佐賀大助手)らの方々協力されました。記して感謝する次第です。



私の研究テーマは、主に材料の強度と韌性に関するもので、計装化シャルピー衝撃試験法を中心に、広範な材料(鉄鋼、鋳鉄、アルミ合金、チタン合金、セラミックス、高分子、これらの複合材料など)を対象としました。材料の安全・安心な設計と使用と言う視点からの教育と研究で、本生産システム工学系(機械系)学生にとって重要なテーマと考えてのことでした。機械のことが分かり、その上で材料の知識を持った技術者の養成がきわめて重要と言われてきました。企業にも高く評価していただいている点と思います。一方多くの修了生、卒業生に学会活動を経験してもらいました。修士修了者は少なくとも数回の学会発表や論文作成を行ってもらいました。ところで技科大で私が指導した学位(博士)の授与数は、課程博士18名、論文博士6名の合計24名に昇ります。ちなみに私の総論文数は650編を超えており、技科大で作成したものが大半です。ここに与えられた環境に感謝申し上げる次第です。

いま技科大を終え、静かな日々を過ごしております。まだやることはあると思っておりますが、私が多くを過ごした技科大について考えております。これは「天伯」にも書いておりますが、当学は日本における技術者養成の本流にあると思っております。当学の大きな特徴にすべき点です。技術は工学とも違いますし、大学名にある技術科学も工学よりは技術に軸足があります。技術とは人間生活の利便性を実現する上で、限られた条件下で達成して示す必要があるものと思います。この一番の原動力は、基礎知識ですが、その習得には切がありません。一方単なる技能では大きな成功は望めません。このような中で技術力を発揮できる人材の養成こそ技科大に課せられた命題だと思います。創設時にはこのような議論や目標が掲げられていたと思いますが、時間の経過とともに風化しやすいことではあります。難しいですが、そんなことを考えながら新しい技科大の改革発展に取り組んで欲しいと願っております。特に新しい知能生産コースに大いに期待しております。若年人口の減少や高専の改組など難しい問題が山積していますが、必ずや克服されると信じています。技科大よ永遠なれ!

## 着任のごあいさつ

生産システム工学系 助教 笹野 順司

平成20年4月1日付けで生産システム工学系の助教として着任いたしました笹野順司と申します。京都大学大学院エネルギー科学研究科エネルギー基礎科学専攻博士後期課程を修了した後に、博士研究員として早稲田大学に4年間勤務しておりました。めっきに代表される、電気化学を基礎とした水溶液系での薄膜形成または表面



処理を専門としており、早稲田大学では、それ以外にも、半導体デバイスの表面修飾を利用したバイオセンサーの開発にも携わっておりました。豊橋技術科学大学ではこれまでの経験を生かして、太陽電池用半導体薄膜を水溶液から形成するための技術開発に取り組んでいます。本学の発展に貢献出来るよう、自分なりの色を出して頑張りたいと思っておりますので、今後ともどうぞ宜しくお願い申し上げます。

## 着任のごあいさつ

生産システム工学系 特任助教 野村 光由

平成20年1月1日付けで寄附講座オーエスジーナノマイクロ加工学講座の特任助教として着任しました野村光由です。平成12年3月に東北大学を卒業し、平成12年4月から秋田県立大学 機械知能システム学科において助手として勤務しながら、平成19年3月に東北大学



院の博士課程を修了しました。これまで超音波振動を援用した超精密研削に関する研究に従事してきました。現在は、直径100 $\mu$ m以下の極小径工具を用いた超精密微細切削加工技術の開発に取り組んでいます。また私の生まれは豊橋で、高校卒業までの18年間を豊橋で過ごしました。現在、豊橋技術科学大学で働いていることをうれしく思っております。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

## 着任のごあいさつ

生産システム工学系 助手 前野 智美

平成20年3月1日付けで生産システム工学系の助手として採用されました前野智美と申します。茨城高専を卒業し本大学生産システム工学課程に編入・同専攻を修了し、自動車会社勤務を経て現職に着任いたしました。前職においては外板プレス部品の設計支援および工程设计を行っていました。現在は学生時にも在籍した塑



性加工研究室において森教授、安部講師とともに塑性加工の研究に従事しております。愛知県は自動車産業の盛んな地域なので、自動車部品の成形に関わる研究が多く活気のある日々を過ごすことができしております。自動車は炭素排出の大きな原因の一つでもあり、燃費向上のために新しい構造、軽い材料で作る事が望まれています。それらに少しでも貢献できればと思研究に従事しております。同窓会の皆様、同じ同窓生ではありますが改めてよろしくお願いいたします。

## 研究室だより

### 材料機能制御研究室の近況報告

材料学講座 修士2年 秦 康文

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？

現在材料機能制御研究室は4名のスタッフと学生27名の計31名で研究を行っています。土谷先生は昨年からはNIMSに移られ現在は客員教授になりました。研究室では鉄鋼材料等の構造材料から熱電材料・形状記憶合金等の機能材料まで、幅広い材料の特性・機能を高度化する研究を行っています。研究成果は、日本金属学会・鉄鋼協会を中心に多くの学生が参加し、また、数名の学生が表彰されました。研究室では、春にBBQ大会、夏休みには研究室旅行等を学生が中心になって活気ある活動を行っています。また本年度は梅本教授の還暦をお祝いする会があり、卒業生・修了生の多くの皆様



にお祝いして頂きました。研究室の詳細・近況は当研究室のホームページ<<http://martens.pse.tut.ac.jp/>>をご覧ください。

最後になりましたが卒業生・修了生の皆様の今後の

更なるご活躍を心よりお祈りすると共に、今後も材料機能制御研究室を暖かくご支援くださるよう心からお願い申し上げます。

## 接合加工研究室の近況報告

加工学講座 助教 山田 基宏

卒業生・修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。接合加工研究室は、福本昌宏教授の下、安井利明准教授、山田基宏助教的3名のスタッフで研究教育にあたっています。研究室には博士課程1名、修士課程17名(中国、エジプト、ウズベキスタンからの留学生各1名)、学部4年生7名(マレーシアからの留学生1名)の計25名の学生が在籍しております。各々が溶射プロセス、摩擦攪拌接合および新規成膜技術開発を中心としたテーマについて研究活動を精力的に行っています。研究以外についても、夏の研究室旅行などの恒例行事はもちろん、系で行っているスポーツ大会にも積極的に参加しています。特にサッカーやバスケットボール大会では2連覇を果たすなど、活気のある研究室です。最後になりましたが、卒業生の皆様のご活躍を祈念すると共に、今後も研究室をご支援くださるようお願い

申し上げます。なお、研究室の詳細についてはホームページ(<http://ajp.pse.tut.ac.jp/>)をご覧ください。



## システム創製研究室の近況報告

生産計画学講座 准教授 Rafael Batres

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか？今年、システム創製研究室のメンバーは、清水 良明教授、バトレス ラファエル准教授(2005年着任)、学生16名(修士課程9名、学部4年7名)です。

研究内容としては、ロジスティクス設計に対する意思決定支援、情報の共有化に基づくライフサイクル工学への取り組み、サプライチェーンの最適運用形態、多目的最適化による計画・設計、マルチエージェントシステム、バイオマスプロセス設計、非定常操作手順の設計などを行っています。その他、大阪府立工業高等学校 総合システム学科、金沢大学・経済学部、名古屋大学、労働安全衛生総合研究所、東京工業大学などと共同研究を進めております。

研究成果とノウハウを社会に還元するために、学会発表の他、中小企業産学連携製造中核人材育成事業などにも積極的に携わっております。それと同時に、国際学会への発表や、海外の研究者の招聘事業を通じて、

海外研究機関との共同研究が成果をあげつつあります。(昨年は、オーストラリア連邦科学産業技術院の研究者が訪問されました)。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様、またシステム創製研究室に興味のある学生の方々も是非お気軽に研究室にお立ち寄り下さい。研究室のホームページを更新しました(<http://www.sc.pse.tut.ac.jp/>)ので、ぜひご覧ください。



## 豊友会事務局から

### 平成 19 年度収支報告

収支の部	
前年度繰越金	4,333,859
会費(各系分配金)	460,000
普通預金利息	7,342
収支合計	4,801,201

支出の部	
会報等発送作業代	40,000
会報等発送代	178,191
名簿更新作業代	3,600
豊友会総会関連支出	207,590
次年度繰越金	4,371,820
支出合計	4,801,201

### 豊友会事務局

〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1  
豊橋技術科学大学 生産システム工学系内  
FAX: 0532-44-6690  
E-mail: [admin\\_2@tut-ob.org](mailto:admin_2@tut-ob.org)  
URL: <http://www.tut-ob.org/>

会 長	中川 真
副 会 長	三好 孝典
会計担当	前野 智美, 戸高 義一
会報担当	山田 基宏
名簿担当	安部 洋平, 今村 孝
ホームページ担当	野田 善之

# 第三・第四工学系

## 電気・電子工学系／情報工学系より

### 電気・電子工学系／情報工学系の近況報告

#### 電気・電子工学系

古川 雄三

修了生、卒業生の皆様も、ますますご活躍のことと思います。電気・電子工学系では、来年度行われるJABEE取得後最初の審査に向けた準備を進めております。また、21世紀COEに続くプロジェクトとして、平成19年度には、グローバルCOE「インテリジェントセンシングのフロンティア」が激しい競争の中で採択されました。これらを基盤として、将来の教育、研究の更なる発展を目指そうとしております。

さて電気・電子工学系では本年度も数名の先生方の異動がありました。まず、平成20年3月末をもって、乾義尚先生が滋賀県立大学工学部電子システム工学科教授へ、内海淳志先生が舞鶴工業高等専門学校電気情報工学科講師へそれぞれ転出されました。一方で、平成19年5月には、河野剛士先生が電子デバイス工学分野の助教として就任され、平成20年4月には、須田善行先生が電気システム工学分野の准教授、千坂光陽先生が電気システム工学分野の助教としてそれぞれ就任されました。また、村上義信先生が電気システム大講座の講師に昇進されています。

事務室では、平成20年3月末をもって系事務補佐員の富永絢加さんが退職され、4月からは、中根ゆかりさんが系事務補佐員になりました。また、平成20年7月31日付で系事務補佐員の加藤仁美さんが退職され、その後任として関美知代さんが新しく系事務補佐員になりました。

いよいよ豊橋技科大でも次の時代に向けた中期計画の検討が始まり、今後更なる変革も予想されますが、教職員一同、今まで以上に社会に貢献できる教育・研究活動を行うよう精進してまいりたいと思います。

#### 情報工学系

菅谷 保之

修了生、卒業生の皆様方におかれましては、各方面にてますますお元気でご活躍されていることと思います。昨年はJABEEの中間審査が行われ、平成20年から3年間のJABEE認定が無事認められました。大学では女子学生を中心とした新しい学生寮の建設や成績優秀者への授業料免除などの対策により、これからの社会を担う優秀な人材を集める努力を行っております。情報工学系におきましても、教育と研究の質をよりいっそう向上させるよう日々頑張っております。

さて、情報工学系では今年もたくさんの先生方の異動がありました。まず平成18年11月30日をもって計算機工学分野助教の岡本吉央先生が東京工業大学のグローバルCOE特任准教授として、情報システム工学分野助教の夏井雅典先生が東北大学電気通信研究所助教としてそれぞれ転出されました。一方、1月にはウリン・トヤ先生が情報システム工学分野の助手として加わりました。また、3月には情報処理工学分野の助手として佐竹純二先生、4月には高専派遣教員として情報処理工学分野へ佐藤恵一准教授が、計算機工学分野の講師として小林良太郎先生が加わりました。さらに9月には計算機工学分野の助教として藤原洋志先生が着任されました。

昨年に引き続き学内再編の動きなど大学の環境が大きく変化しつつあり、ますます我々の手腕が問われてきております。新しく加わったメンバーも含めまして教職員一同これからも技科大、情報工学系のために教育・研究活動に精進していく所存でありますので、今後もよろしくご支援のほどお願い申し上げます。

## 電気・電子工学系／情報工学系教職員一覧

### ◆ 電気・電子工学系

〈基礎電気・電子大講座〉

教授：太田昭男，福田光雄，井上光輝  
 准教授：服部和雄，中村雄一，内田裕久<sup>※1</sup>，  
 Baryshev Alexander  
 助教：稲田亮史，金 周映<sup>※1</sup>

〈電気システム大講座〉

教授：長尾雅行，滝川浩史，櫻井庸司  
 准教授：須田善行  
 講師：村上義信  
 助教：桶真一郎，千坂光陽  
 技官：日比美彦

〈電子デバイス大講座〉

教授：石田 誠，若原昭浩，澤田和明  
 准教授：朴 康司，原田八十雄，高尾英邦<sup>※2</sup>  
 講師：岡田 浩，古川雄三  
 助教：河野剛士  
 技官：足木光昭

### ◆ 情報工学系

〈計算機大講座〉

教授：中川聖一，藤戸敏弘  
 准教授：廣津登志夫，秋葉友良<sup>※3</sup>  
 講師：杉原 真，小林良太郎  
 助教：山本一公，藤原洋志  
 技官：片岡嘉孝

〈情報処理大講座〉

教授：青野雅樹，栗山 繁，三浦 純  
 准教授：福村直博，佐藤恵一  
 講師：菅谷保之  
 助教：関 洋平，向井智彦  
 助手：佐竹純二

〈情報システム大講座〉

教授：田所嘉昭，梅村恭司，大平 孝，  
 中内茂樹  
 准教授：上原秀幸<sup>※4</sup>，和田和千  
 助教：阿部洋丈

助手：ウリン・トヤ  
 技官：宮脇治雄

### ◆ 事務員

丸山利美，斉藤陽子，中根ゆかり，関美知代

### ◆ グローバルCOE事務員

杉浦寛子，小林祐子

※1 研究基盤センター  
 ※2 インテリジェントセンシングセンター  
 ※3 メディア科学リサーチセンター  
 ※4 未来ビークルリサーチセンター

### ◆ 同窓会役員

〈電気・電子工学系〉

稲田亮史，村上義信，桶真一郎，河野剛士  
 E-mail: admin\_3@tut-ob.org

〈情報工学系〉

向井智彦，山本一公  
 E-mail: admin\_4@tut-ob.org

平成 19 年度

### 電気・電子工学系／情報工学系同窓会会計報告

#### ■収入の部

平成 18 年度繰越金	7,431,508
平成 18 年度終身会費入金分	1,160,000
預金利息	11,426
三志会繰越金	786,450
収入合計	9,189,384

#### ■支出の部

平成 19 年度会報発送費	231,550
平成 19 年度会報発送作業費	108,743
平成 19 年度国際学会発表奨励金	400,000
三志会準備金	200,000
小計	740,293
次年度繰越金	8,449,091
支出合計	9,189,384

# 研究室だより

## 超電導工学研究室

電気・電子工学専攻 修士1年

馬場 翔平

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様それぞれの職場において、大いにご活躍されていることと存じます。

現在の超電導工学研究室は、太田昭男教授、中村雄一准教授、稲田亮史助教の下、修士14名、学部6名の総勢23名の大所帯となっております。また、修士2年の学生全員が早期に就職を決めており、全力で研究に取り組んでいるところです。

本研究室では、電力など幅広い産業分野での実用化に向けた高温超電導体線材・導体の研究を行っております。また超電導関係以外の研究ではエネルギー利用の高効率化を目指した酸化物熱電材料の開発、マイクロ波を用いた食品や薬品の非破壊検査技術の開発の研究を進めており、超電導に関する研究のみならず幅広い分野で研究を行っております。研究成果の発表は積極的に行っており、学生の学会発表では低温工学会、電気学会、応用物理学会で主に行っております。また超電導グループでは国際学会であるISS

(International Symposium on Superconductivity)での発表も行っております。

研究室行事としては、春には新4年生歓迎会、基礎電気・電子工学分野合同での遠足、夏には大実験お疲れ様会、冬には忘年会、卒業生・修了生送別会などを行い、日頃の研究の疲れを癒すとともに研究室内の親睦を深めるために行っております。

本研究室の情報に関しましては超電導工学研究室のWebページ (<http://www.super.eee.tut.ac.jp/>)にて研究成果や研究室の近況等について公開しておりますので、お時間があるときにでも一度ご覧ください。

ご多忙とは存じますが、豊橋方面へ来られる機会がございましたら、お気軽に研究室へお立ちより下さい。研究室一同、心から歓迎いたします。先輩方の大学在学中、卒業・修了後のお話や就職活動に関するアドバイスなどの貴重なお話を頂ければ幸いです。

最後になりましたが、諸先輩方のさらなるご活躍とご健康を心よりお祈りしております。





## 先進半導体工学研究室

電子・情報工学専攻 博士3年

### 畠 中 奨

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様につきましては、大学での経験を糧に大いに活躍のことと存じます。これまで、化合物半導体に関する研究グループは、それぞれの教授及び准教授の下、個々の研究室単位で研究を行ってきました。しかしながら、一昨年度退官されました米津 宏雄 名誉教授が残してくださった「光・電子デバイスのモノリシック集積化」の成果をシステムレベルで実現するために、化合物半導体グループは、昨年度より、「光・電子融合デバイスグループ」として新体制をスタートすることとなりました。この研究グループは、若原 昭浩 教授、朴 康司 准教授、岡田 浩 講師、古川 雄三 講師の4名の教職員スタッフの下、博士後期課程4名、修士課程23名、学部4年生13名、研究員1名の総勢45名で日々研究に励んでいます。

私達の研究では、化合物半導体光デバイスとSi電子デバイスをモノリシックに融合したデバイス・システム実現を目指し、材料からデバイス・システム開発までを研究対象としています。そのため、材料開発にもデバイス・システムを考えた材料開発を、デバイ

ス・システム開発にも材料特性を生かした開発を、といったように、それぞれの観点から研究を行うことが重要となってきました。また、電子デバイス工学分野(旧電子デバイス大講座)は今年度より、研究グループにとらわれない修研室の部屋割りをを行い、修研室には集積回路グループと光・電子融合デバイスグループが混在しています。私達の研究は上述のように、Si電子デバイス(集積回路)も取り扱うため、集積回路グループと議論を行えることは研究を進める上で非常に有益で、大きな刺激にもなっています。その他、研究のみならず、行事などの情報は研究室のwebサイト (<http://www.dev.eee.tut.ac.jp/>) で公開されておりますので、お時間のある時に一度目を通して頂けると幸いです。

卒業生・修了生の皆様におかれましては、豊橋にお越しの際は私どもの研究室にお気軽にお立ち寄りください。先輩方の経験談や御助言を頂ければ光栄です。研究室一同心よりお待ちしております。最後になりましたが、諸先輩方の今後の益々の御活躍、発展を心よりお祈り申し上げます。



## 離散最適化研究室

情報工学専攻 修士2年

多田 哲馬

卒業生・修了生、研究室OB・OGの皆様、いかがお過ごしでしょうか。皆様におかれましては、それぞれの職場で大にご活躍されていることと存じます。

現在、本研究室（離散最適化研究室）は、藤戸敏弘教授、藤原洋志助教の下、修士5名、学部4名（イラン留学生1名）の計11名で研究を行っております。本研究室は2004年9月にスタートした、まだ新しい研究室です。発足当初は石井利昌助教、岡本吉央助教が在籍しておられましたが、石井助教は2006年度に小樽商科大学へ、岡本助教は2007年12月に東京工業大学へ転任されました。ですが、今年度9月をもって、新たに藤原先生を迎え、研究室が活気付いてまいりました。

本研究室では離散最適化に関わる研究を行っており、以下のようにバリエーション豊富なテーマを扱っております。

- (1) 近似アルゴリズム
- (2) ゲーム理論
- (3) オンラインアルゴリズム

(4) 列挙アルゴリズム

(5) アルゴリズムの平滑化解析

基礎の勉強がほとんどなので、学外での発表を盛んに行っているとはいえませんが、ゼミ形式の研究会には積極的に参加しています。また、学部3年生を含めたプログラミングの勉強会を行っており、その一環でACM/ICPCに出場しました。約10分の1の関門の国内予選を突破し、会津大学で開催されるアジア予選に出場する予定です。

本研究室の行事としましては、新入生歓迎会、追いコン、バーベキュー大会、ポーリング、学期ごとの飲み会、不定期で飲み会があります。何年かに1度スポーツ大会や旅行に行ったりします。

研究室に関することについては、Webページ (<http://www.algo.ics.tut.ac.jp/>) にて公開しておりますので、よろしければこちらもご覧ください。

最後になりましたが、卒業生・修了生の皆様方のご健康と、更なるご躍進を祈念いたします。また、近くにお越しの際は是非こちらへお立ち寄りください。



## 信号処理研究室

電子・情報工学専攻 博士3年

鈴木 寛人

卒業生、修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いにご活躍のことと存じます。

信号処理研究室の近況をご報告いたします。現在、信号処理研究室は田所教授と和田准教授の指導の下、博士課程1名、修士課程9名、学部学生3名の計15名で日々研究に励んでおります。今年は学部生が例年より少なく、また、昨年度まで活躍されていた夏井助教は東北大学へ異動されています。

研究に関しては、デジタル信号処理グループとアナログ信号処理グループに分かれて研究に取り組んでいます。デジタル信号処理グループでは、近年、和音や打楽器を含む演奏音の自動採譜を中心に研究を行っています。アナログ信号処理グループでは、フィルタやアナログ-デジタル変換回路などのアナログ集積回路の研究を行っています。

研究室の行事では、お花見、ハイキング、海水浴、KIDS OB戦（野球）、開学記念駅伝大会、芋煮会など

で親睦を深めています。特に、開学記念駅伝大会では、FFTチームが一昨年、昨年に3位となり、日ごろの練習の成果を出すことができました。本年も昨年以上の成績を狙うために練習に励んでいるところです。

ここで、卒業生、修了生の皆様にお知らせがあります。田所先生は2009年3月に定年をおむかえになり、記念行事を予定しております。本研究室の卒業生、修了生の皆様には後ほど連絡を差し上げます。研究室一同、記念行事への参加を心からお待ちしております。記念行事に関してのお問い合わせはメールで [letsrun@signal.ics.tut.ac.jp](mailto:letsrun@signal.ics.tut.ac.jp) へ連絡ください。研究室のホームページ (<http://www.signal.ics.tut.ac.jp/>) でも詳細な情報を掲載する予定です。

また、豊橋近郊へ来られたときには研究室にどうぞお立ち寄りください。在学中などの貴重なお話をいただければ幸いです。最後になりましたが、皆様の今後の更なるご活躍を心からお祈りしております。



## 三志会(3・4系合同同窓会)報告

平成20年3月22日に、第1回3・4系合同同窓会(懇親会の席上で「三志会」と命名)が行われました。ここでは、三志会の発案者である4系田所先生と、初代三志会会長になられた岐阜高専所先生に寄稿をお願いしましたので、当日の写真とともにお届けいたします。



参加者全員の集合写真

### 3・4系合同同窓会(三志会) 発足の経緯と第1回同窓会の様子

第4工学系教授 田所 嘉昭

同窓生の皆さんお元気ですか。お蔭様で、私は昭和53年に本学に仙台から赴任し、今年度で無事定年を迎えることになりました。この間、多くの同窓生の皆様にお世話になり感謝しています。

ただ、定年に迎えるに当たり気がかりなことは、3・4系の同窓会組織がしっかりしてないことでした。そこで、同窓生をさしおいて平成19年12月に開催された本学出身の高専教員との交流会の席で、3・4系合同同窓会の開催を呼びかけました。その後、系内にその旨をアナウンスしたところ、1回生の井上先生を始め、本学に在籍する同窓生の教員が「我々がやります」とこの企画を引き継いでくれました。井上先生の強力な指導力の下に短期間ですばらしい企画を作り上げてくれました。

そして平成20年3月22日(土)には、会場のホテル日航には、溢れるばかりの同窓生が集まりました。その総数401名(OB:約270名,旧教員:約80名)。

初回の同窓会の概略を以下に記します(敬称略)。  
第1部講演会(講師:高嶋(1回生,IBM),佐藤(1回生,日立),梅崎(3回生,名工大),川人(4回生,静大)。  
第2部懇親会:1)開会挨拶:大山(1回生,熊本電波高専),2)乾杯(工藤(2回生,八戸高専),3)歓談,4)会長選出(会長:所(1回生,岐阜高専),副会長:野村(2回生,シャープ),5)同窓会名称決定(三志会,3(さん)系,4(し)系の会,3つの志(魂)は同窓生が入れる),6)支部役員の紹介(北海道/東北:工藤(八戸高専),関東:山口(茨城高専),関西:藤田(奈良高専),四国/中国:原(松江高専),九州:大山(熊本電波高専),東海(本部):所(岐阜高専)),7)歓談,8)スピーチ(本多先生,野口先生),9)西永学長挨拶,OBから花束贈呈,10)写真撮影。

同窓生の皆さん,明るく(健康),仲良く(団結),元氣良く(前進)同窓会を盛り上げて行きましょう。次回開催はオリンピックイヤーという案が出ています。



「三志会」の名前の由来について話される田所先生



野口先生と本多先生のスピーチ

## 三志会発足にあたって

三志会初代会長 岐阜工業高等専門学校

所 哲 郎

岐阜の片田舎で物心ついた頃、母親の実家隣の果樹園の中に国立学校ができた。高専との出会いである。10年たち高専を受けた。当時噂では高専にも進学の道が検討されているということであった。5年たち噂がやっと現実となり、豊橋技術科学大学が学生募集を開始した。高専入学時に初心表明したこの大学を受け、技科大の一期生となった。

豊橋技科大は何もない新しい学校であったが、教職員の方々と何でも自分たちで作りに上げていく喜びと楽しさにあふれていた。初めての夏休みを迎える前、学寮を国際会議参加者の宿として利用させていただき、西永先生自ら学寮を回られていた。国際会議があり、それを運営されるということに大学教授のスケールを実感した。

その後縁有って、母校岐阜高専に奉職した。小崎・長尾先生のご指導の下学位をまとめると、毎週のように通った技科大との連携も次第に薄れつつあった。そんなとき、技科大から来られた岐阜高専沖津校長の後任として、小崎先生が第5代岐阜高専校長に就任され

た。思わぬ形で小崎教授と再会し、また、技科大との絆が復活した。小崎校長から現在の榊原校長へと引き継がれる前、西永先生が技科大の学長に就任されることとなり、岐阜高専の小崎校長を表敬訪問された。思わぬ形で西永先生と再会した。

そして、2008年3月、西永学長が退任される直前、技科大3・4系の合同同窓会三志会が開催された。初代の三志会会長として所から西永学長に花束贈呈をさせていただいた。3・4系の同窓教員の尽力に感謝すると共に、この豊橋技科大出身者と技科大の繋がりは、関係者の成長と共に益々太くなっていくことを確信した。今後とも関係各位の大学と同窓会の発展に向けた益々のご協力を頂き、より大きな連携を築き上げていけることを喜び感謝している。



所会長から西永学長へ花束贈呈

### 第1回 三志会会計報告

#### ■収入の部

準備金(全学同窓会3・4系)	200,000
系長裁量経費	784,860
学内教員経費	575,850
懇親会経費	3,029,000
寄付金(藤井名誉教授)	10,000
収入合計	4,599,710

#### ■支出の部

案内状作成	144,210
Webサーバ用PC	143,900
学外教員旅費	905,930
吊り下げ名札	14,850
会場利用費	242,750
懇親会費	2,307,500
謝金	53,280
振込み手数料	840
小計	3,813,260
繰越金(全学同窓会3・4系経費へ)	786,450
支出合計	4,599,710

# 第五工学系

## 物質工学系より

### 学内近況報告

系長 竹 市 力

同窓生の皆様にはますますご活躍のことと存じます。平素は本学および物質工学系(5系)の教育・研究活動に格別のご配慮・ご支援をいただき、厚くお礼申し上げます。早いもので、皆様ご存知の様に、本学は開学以来30年を経過しています。30周年記念事業にあたりましては、多くの皆様から格別のご配慮を賜り、誠にありがとうございました。大学を取り巻く状況には厳しいものがありますが、本学は他の大学にはない様々な特徴を生かし、小さいながらも存在感のある大学をめざして教職員一体となって頑張っています。



2008年4月からは、榊 佳之新学長の元、執行部体制も一新され、本学の発展に向けて改革がすすめられています。昨年度の会報でもご連絡しましたが、学内再編は順調に行けば2010年度から行われる予定です。その際には、建学以来続いてきた3学期制から2学期制に移行する予定です。皆、3学期制にすっかり馴染んでおり、きめ細かいカリキュラム編成が可能であるとか、一番暑い2ヶ月が夏休みにあてられるとか、それなりに良い点も多くありますが、大学の国際化や各種学会開催との整合性のためには止むを得ない措置かと思われまます。

私は系長として二年目を迎えていますが、益々忙しくなる状況です。大学の変革期にあたり、重責に身が引き締まる思いで5系の発展のため精励恪勤を心がけて取り組んでいます。

まず、5系関連の人事異動をご報告します。2008年4月からの新執行部には、神野清勝先生が教育担当の理事・副学長として就任され、大学の根幹である教育に加え、国際協力、学内再編などの責任者として大学の発展に向けてご尽力されています。また、2008年4月1日付けで齊戸美弘先生が准教授に昇進されまし

た。本学出身者としてこれまでもマイクロ分離科学・分析化学の領域で目覚しい活躍をされてきましたが、今後はより幅広い分野での活躍が期待されています。

技科大と高専との交流もより多面的になっていきます。その一つが2008年度から始まった高専・技科大間の教員交流制度です。2009年度には5系の武藤浩行先生が久留米高専に派遣されることになりました。一年間、高専における教育・研究活動を経験されるわけですが、技科大に戻ってからは、その体験を活かして一層の活躍をされること期待されます。武藤先生の派遣にあわせて、久留米高専・材料工学科から濱上寿一先生が5系に派遣され、一年間、教育・研究活動をしていただきます。二つ目の交流が本学教員と高専教員との研究連携プロジェクトです。学長裁量経費により、昨年度大幅にモデルチェンジされた本プロ

#### [Staff]

- 青木 克之 (教授; X線構造生物学・生物無機化学・超分子化学・結晶化学)
- 伊津野 真一 (教授; 高分子触媒・有機反応化学・不斉反応)
- 岩佐 精二 (准教授; 有機合成化学・有機金属化学)
- 大北 博宣 (助手; 触媒化学)
- 大串 達夫 (准教授; ゼオライト科学・無機材料誘電科学)
- 角田 範義 (教授; 触媒化学・環境調和・資源循環)
- 河内 岳大 (助教; 高分子合成・高分子特性解析)
- 齊戸 美弘 (准教授; マイクロ分離科学・分析化学)
- 逆井 基次 (教授; 無機材料工学)
- 佐藤 裕久 (助教; 固体化学・無機合成・構造解析)
- 柴富 一孝 (助教; 有機合成化学・有機金属化学)
- 竹市 力 (教授; 高分子材料化学・複合材料・炭素材料)
- 服部 敏明 (准教授; 分析化学・化学センサー・高分子電解質錯体)
- 原口 直樹 (助教; 高分子合成・高分子反応)
- 平田 幸夫 (准教授; 分析化学・分離分析)
- 藤澤 郁英 (助手; X線結晶構造解析・生化学)
- 松田 厚範 (教授; 無機材料科学)
- 松本 明彦 (准教授; 界面化学・吸着科学)
- 水嶋 生智 (准教授; 触媒化学・プラズマ化学)
- 武藤 浩行 (助教; セラミック材料・高温変形・複合材料)
- 吉田 絵里 (准教授; 高分子合成化学・分子集合体の科学)
- 吉田 祥子 (講師; 生物物理学・神経発生学)

#### [Technical Staff]

- 太田 初一 (技術専門職員)
- 齊藤 年秀 (技術専門職員)

#### [Secretary]

- 鈴木 いずみ (系事務)

ジェクトも軌道にのり、応募件数は増えています。高専の先生方との研究連携のみならず、共同研究を通じて高専の学生さんとのより密接な協力体制の構築を目指しています。

5系は2005年に日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査を受け、5系の技術者教育プログラムが社会の要求水準を満たしているという認定をいただいております。2009年に予定している次期の審査でより良い評価が受けられるよう、不断の教育改革を継続しています。

これまで技科大は高専卒業生を学部の3年次に受け入れ、修士2年間とあわせて4年間の一貫教育を基本としてきました。しかし、現在、高専では専攻科の定

員を増やそうとしており、従来の高専と技科大の関係に変化がみられつつあります。技科大としましては、高専との緊密な連携を保持しつつ、こうした変化に対応すべく、新たなステージに向けて独自性を発揮していく方策を見出すことが求められています。大学は少子化という厳しい環境のもと、大学としての教育・研究の基盤を強固にした上で、独自性すなわち他大学との違いをアピールすることが求められ、奮戦している状況です。今後予想されるより大きな変革に向けて、我々はより一層の努力をしてゆく所存です。同窓生の皆様の中・長期的な視点からの変らないサポートをお願い申し上げます。

## 研究室だより

### 大串・佐藤研究室

物質工学専攻 修士 酒井 邦晃

卒業生、修了生の皆様いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場において大いにご活躍されていることと存じます。今年度3月に一名の修了生を見送りました当研究室は、現在、修士学生9名、学部生4名の計13名となり、更に仮配属の学部生が4名加わり、私が配属された当初と比べまして実に賑やかになりました。

当研究室の研究分野を簡単に紹介します。大串研究室では、ゼオライトのカチオン挙動に関する研究として、誘電特性やマイクロ波加熱特性、熱安定性といったゼオライトの物性研究を行っています。一方、佐藤研究室では、希土類マンガナイト系の新物質の開発研究を行っています。主に修士学生を対象として、日々の研究成果を中化連秋季大会にて外部に発表しています。



年内行事としましては、春は追いコンとお花見、夏は研究室旅行、秋には今回が新企画の「おでんパーティ」、冬には忘年会と新入生の歓迎会と四季折々行っています。今年、大串先生が還暦を迎えられたことで、我々学生と佐藤先生、退職された亀頭先生を交え、お祝い会を行いました。その会では、大串先生は、長い歳月を過ごして来たことを感じ遠い目をしておられ、教職員としての今後の決意を語ってくださいました。

諸先輩方、近くにお越しの際は是非当研究室にお立ち寄りください。研究室一同、お待ちしております。最後になりましたが、先輩方の更なる躍進とご健康を心よりお祈りしております。

### 伊津野・原口研究室

機能材料工学専攻 博士 荒川 幸弘

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。諸先輩方にはそれぞれの職場において、大いにご活躍をされていることと存じます。思い起こせば、私が当研究室に配属されたのは修士課程1年生の時（2004年4月）であり、あれからもう4年と半月程の月日が流れました。ちょうどその年は、同年3月に伊藤浩一先生（現本学名誉教授）が定年御退職され、また現助教の原口直樹先生が当研究室に着任されたことにより、現体制において伊津野・原口研究室が新たなスタートをきった年でもありました。当時はまだ10名にも満たなかった研究室生も、今では博士課程1名、修士課

程9名(内、留学生2名)、学部生7名の計17名にまで増え、活力溢れる研究室へと成長致しました。その内、私を含めた4名が、来春慣れ親しんだこの学び舎を卒業させていただく予定であり、これもひとえに先生方をはじめ、これまで研究室の伝統を築きあげた諸先輩方、一足先に社会に出て活躍されているご同輩方の御指導、御助言の賜物と深謝して止みません。

当研究室では、高分子上に不斉触媒構造を固定化させた「高分子不斉触媒」の新規開発に向けて日々研究を重ねております。特に、水中での不斉反応において特異な機能を発現する高分子触媒の開発や、金属元素を含まない不斉有機分子触媒の高分子への新規固定化法の開発など、高分子触媒の特質を最大限に活かした環境調和型有機合成の実現に向けて力を入れております。最近では、光学活性高分子微粒子の精密合成や第四級アンモニウム塩生成重合による主鎖キラル高分子の創製など、触媒の担体となる高分子鎖を様々にデザインすることで新たな触媒機能の発現を目指す研究にも精力的に取り組んでいます。また、これらとは別の大きな試みとして、ペプチドの動的二次構造の統計的解析に関する研究も行っています。得られた研究成果は学術雑誌をはじめ、研究室生全員が国内外の学会に積極的に参加して発表しています。今年の8月には、私と修士課程の院生1名がフィラデルフィアで開催されたアメリカ化学会に参加してきました。

春にはお花見、夏にはバーベキューや研究室旅行などの恒例行事があり、一同親交を深めております。今年5月に開催された研究室対抗ソフトボール大会では、皆が一致団結して臨み、見事3位に入賞しました。研究・勉学はもちろんのこと、何事にも常に高い意識を持って取り組むことが当研究室のモットーであり、幅広い知性に人としての豊かな心と感性を兼ね備えた技術者を目指しています。研究室の活動状況はwebページ (<http://www.tutms.tut.ac.jp/~haraguchi/>) にて公開しておりますので、是非ご覧下さい。

皆様ご多忙とは存じますが、豊橋へ来られる機会がありましたらお気軽に研究室へお立ち寄り下さい。研



究室一同心よりお待ちしております。最後になりましたが、皆様の今後ますますのご活躍、ご健康を心よりお祈り申し上げます。

## 青木・藤澤研究室

物質工学専攻 修士 太田 遼

卒業生・修了生の皆様にはますます各分野においてご活躍のことと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。現在、青木・藤澤研究室では修士5名、学部5名の学生で構成されております。青木先生が来年度の3月をもって退職されるということもあり、以前に比べ人数は減りましたが、みな和気藹々と研究に取り組んでいます。また、学会に向けた準備に忙しい日々を送っています。以下に主要研究テーマを紹介いたします。

- (1) バンコマイシン耐性菌に有効な抗菌薬開発のための、バンコマイシンおよびリストセチンとそのターゲットである細菌細胞壁前駆体との複合体のX線構造解析による分子認識機構の解明(構造生物学)
- (2) 生体分子認識系の構築と応用として、アセチルコリンやカルニチンなど分子内に第4級アルキルアンモニウムをもつ生体分子の分子認識機構のモデルとしての芳香環とのカチオン- $\pi$ 相互作用やプロリンの分子認識機構としての芳香環とのC-H- $\pi$ 相互作用に関する研究(超分子化学)
- (3) 生体分子と金属イオンとの相互作用の解明と応用として、核酸の塩基を特異的に認識する金属錯体の開発やイオノフォア-抗生物質と金属イオンとの相互作用に関する研究(生物無機化学)

皆様、日々ご多忙のこととは思いますが、豊橋を訪れた際には是非お立ち下さい。

最後に卒業生・修了生の皆様のこれからの益々のご活躍を心よりお祈りしております。





## 海外研修報告

助教 柴 富 一 孝

このたび本学若手教員育成プロジェクトの支援を受け、米国シカゴ大学化学科山本尚研究室にて1年間の研修を行ってまいりました（派遣期間：平成19年5月～平成20年3月）。シカゴ大学には本学赴任前、ポストドク時代に2年間滞在していたのですが、今回教員という立場での再度の訪問は研究、教育に対する視点が以前とは違って特に有意義なものとなりました。本研修は研究を主眼としてのものでありましたので、山本教授との共同研究という形で自身の研究を推進させて頂いたのですが、シカゴ大学の高度な研究設備と山本研究室の潤沢な資金力、そして山本教授との極めて有意義なディスカッションのおかげをもちまして非常に高い成果をあげることができました。また、派遣先での同僚、学生諸君との付き合いの中で日本の研究者、技術者が世界で活躍するためには英語能力のみならず（むしろそれよりも？）積極性、どん欲さといった部分ももっと必要ではないかということ強く感じました。この

経験を今後の自身の成長と本学における学生教育に十分に生かしていきたいと思えます。最後に本研修を快く受入れて頂きましたシカゴ大学山本尚教授、秘書のLanaさんと本学若手教員育成プロジェクトに深謝いたします。また末筆ながら本学OB諸氏のご健勝とますますのご活躍をお祈りして研修報告とさせていただきます。



## — 5 系同窓会会計報告 —

今年度の決算において、会報郵送料が予算案より少なかったのは、郵便番号順に振り分けたことによる割引サービスを受けられたためです。名簿管理経費はタックシール作成と同時に名簿更新の作業を行ったため、タックシール作成費に含めて執行しました。そのため名簿管理経費の科目は0円となりました。ホームページの更新作業も行わなかったため、決算は0円となっています。また、昨年度予算案になかった名入り封筒代を執行していますが、これは同窓会報を郵送する際の封筒が無くなったため、新たに2年分を作成したものです。

平成20年度の予算は例年通りの金額を計上しております。

### ■収入の部

	平成19年度予算案	平成19年度決算	平成20年度予算案
前年度繰越金	2,221,241	2,221,241	2,381,712
会費	400,000	370,000	400,000
預金利息	20	3,956	4,000
小計	400,020	373,956	404,000
収入合計	2,621,261	2,595,197	2,785,712

### ■支出の部

	平成19年度予算案	平成19年度決算	平成20年度予算案
会報郵送料	180,000	123,275	130,000
タックシール作成費	10,000	10,000	10,000
袋詰め作業代	15,000	22,210	25,000
名入り封筒代	0	46,000	0
謝礼	14,000	12,000	14,000
名簿管理経費	15,000	0	10,000
ホームページ作成・管理費	5,000	0	5,000
小計	239,000	213,485	194,000
次年度繰越金	2,382,261	2,381,712	2,591,712
支出合計	2,621,261	2,595,197	2,785,712

# 第六工学系

## 建設工学系より

### 学内近況報告

教授 河 邑 眞

変化の激しい社会環境のもと、卒業生の皆様には元氣でご活躍のこととお慶び申し上げます。この学内近況報告は、その年の学生生活委員会委員が執筆するというので、筆者の担当となりました。大学の新しい動きなどをまじえて、建設工学系の近況について紹介します。国立大学が独立行政法人となって5年目となりますが、豊橋技術科学大学では、JABEEによる学部教育の評価、業績による教員の個人評価、文科省による大学運営に対する評価などにより、大学のシステムに対するチェックが加えられ、大学の生き残りを賭けて教職員の努力が続けられています。大学のシステムの改善の一つとして、平成22年には学科の再編が予定されています。建設工学系においても、再編後のカリキュラムの検討が始められています。

さて、平成20年度に関する建設工学系の人事異動について紹介します。大学の創設時から建築意匠設計を担当された渡邊昭彦先生が3月末で定年退職されました。6月に行われた退職記念パーティーは、卒業生、地元の各界の方々など多数の参加を得て、盛大に行われました。渡邊先生は退職後、東京電機大学に勤務されていますが、豊橋技術科学大学でも非常勤講師を引きつづきお願いしています。また、建築構造を担当されていた倉本洋先生が4月より大阪大学大学院建築工学部門教授として転任されました。倉本先生は耐震問題の研究に関して内外の注目を集めている研究者であり、本学においても研究、教育面で多大な業績をあげられました。先生の転出は豊橋技術科学大学の建設工学系にとっては大きな痛手ですが、ご本人の今後のご発展を祈念いたします。

さらに本年7月、中西仁美先生がオーストラリアの国立研究所 Commonwealth Scientific and Industrial Research Organization (通称:CSIRO) に研究員として転出されました。内外を問わず職場を選択し、海外の職場で活躍出来る日本人研究者は少ないように思います。中西先生が国際的に活躍されることを期待します。余談ですが、若い時代に豊橋技術科学大学の助手をしていて他大学に転出された先生方は皆さん他大学で大変活躍されています。人材の流動も時として大事と考えます。

ここで、4月に着任された先生を紹介します。浅野

#### 教 職 員 一 覧

- 退職  
渡邊 昭彦 (2008年3月退職, 4月より本学名誉教授, 東京電機大学教授)
- 新任  
浅野純一郎 (2008年4月, 前職は長野工業高等専門学校環境都市工学科・准教授)
- 転出  
倉本 洋 (2008年3月, 大阪大学大学院工学研究科地球総合工学専攻建築工学部門・教授)  
中西 仁美 (2008年7月, オーストラリア連邦Commonwealth Scientific and Industrial Research Organisation (CSIRO)・Research Scientist)
- 高専交流人事  
柴田 良一 (2008年4月から岐阜高専より, 豊橋技術科学大学建設工学系准教授として1年間赴任)  
中澤 祥二 (2008年4月から豊橋技術科学大学より, 岐阜高専建築学科准教授として1年間赴任)
- 現職 (2007年9月現在)
- [構造大講座]  
教 授 : 加藤史郎, 河邑 眞, 山田聖志 (系長), 三浦均也  
准 教 授 : 柴田良一, 真田靖士  
助 教 : 松井智哉  
助 手 : 細野康代  
技 官 : 金田隆文
- [環境大講座]  
教 授 : 松本 博, 青木伸一 (系長補佐), 井上隆信  
准 教 授 : 加藤 茂 (ICCEED 兼務)  
講 師 : 宋 城基  
助 教 : 対馬孝治  
技 官 : 片岡三枝子
- [計画大講座]  
教 授 : 広富康裕, 大貝 彰  
准 教 授 : 泉田英雄, 松島史朗 (CCR 専任), 浅野純一郎  
助 教 : 谷 武, 細田智久

純一郎先生が長野高専から准教授として本学に赴任されました。浅野先生は都市計画分野を専門としていますが、出身は本学建設工学課程です。浅野先生のポストについては公募による選考を行いました。これまで、建設工学系の准教授以上に卒業生が採用されてきておりませんでした。現在教員の採用は公募が基本となっています。優秀な卒業生が建設工学系の教員として採用される機会が今後増えてくると考えられます。また、構造分野を担当する准教授として、柴田良一先生が岐阜高専から4月に赴任されました。この人事異動は豊橋技術科学大学と高専機構との関係を緊密とするための人事交流制度にもとづくものです。柴田先生は1年間本学の教員をされ、来年4月には岐阜高専にもどられます。この人事交流では、豊橋技術科学大学建設工学

系 中澤祥一先生が建築工学科准教授として4月より1年間の予定で岐阜高専に勤務されています。柴田先生も中澤先生も加藤史郎研究室の卒業生であり、日頃より交流のあった方々です。本年4月には、三浦均也先生が教授に昇任されました。三浦先生は地盤工学が専門で、博士課程学生の研究指導、JABEEコースのとりまとめなど、研究、教育の実績をあげておられます。

本年4月には、新学長として榊佳之先生が就任されましたが、4月からスタートした学生生活支援に関する新しいプロジェクト「卓越した技術科学者養成プログラム」について紹介します。このプロジェクトの内容は入学料免除と授業料免除からなっています。前者では、入学試験学力選抜で優秀な成績をおさめた者もしくは推薦選抜受験者で高専での成績が優秀であった者について、一定の条件を満たしておれば入学料を免

除するというものです。後者では、各課程の各学年を対象として、最も優秀なものを各1名を半期(6ヶ月)ごとに選考し、半期分の授業料を半免しようというものです。前者はより優秀な学生の入学を期待するもので、後者は学生の学習意欲の増進が目的です。このプログラムの実施には多額の費用が必要ですが、その費用は教員の研究費の削減により準備されます。教員にとっては頭の痛い面もあります。

以上、大学全体にかかわることも含めて、学科内の新しい動きについて紹介しました。独法化後大学が大きく変化してきているを感じていただけたでしょうか。これまで同窓会の皆さんから多くの支援をいただけてきましたが、今後更なる支援をいただくためのプログラムも出てくると思われれます。今後ともよろしくお願ひします。

## 新任教員より

### 准教授 浅野 純一郎

2008(平成20)年4月1日付で建設工学系准教授として着任しました。豊橋技術科学大学・大学院で6年間学んだ後(12期生)、1年間の民間会社勤務を経て、14年間、長野工業高等専門学校で教育・研究活動をしてきました。大学時代は瀬口哲夫先生にご指導をいただきましたが、瀬口先生が名古屋市立大学に異動された後は、技科大との接点は少なくなっていました。また、長く過ごした長野県は教育県で知られた上、多くの文人墨客に愛された、まことに心を休めて勉学に勤しむに相応しい土地で、そこでの生活に慣れた自

分はすっかり信州人を意識していました(出身は岐阜県ですが)。それだけに再び豊橋技科大に戻り、母校で教鞭をとる機会を得られたことは本当に驚きであり、また大変光栄に思っています。専門分野は都市計画学で、主に地方都市での都市的土地利用・農村土地利用のコントロール手法や都市計画史をテーマとしています。この分野は、自分の生活する「まち」を愛さなければ、よい研究ができません。豊橋を愛し、技科大や学生を愛し、母校に貢献できればと思っています。よろしく御世話になります。



### 准教授 柴田 良一

14年振りに豊橋に来ました柴田良一です。博士課程を修了し、岐阜高専で勤務しておりましたが、高専・両技科大の教員交流として、今年度1年間ですが、お世話になります。学生としてまた教員として、技科大と高専とを2往復することになり、それぞれの学校で両面を経験することになりました。期待と不安のなかで毎日を過ごしています。任期は1年なので短いですが、大きな変革期にある大学や高専に身を置くものとして、互いの存在意義を踏まえて、連携の架け橋となるべく、微

力ながら努力したいと思います。

現在は写真のように、多数の計算機を統合したグリッドコンピューティングの研究を行っており、大規模構造解析の実現に向けて努力しています。往復5時間弱の通勤をこなしていますが、毎日が連続の出張のような状態です。あっちでもこっちでも仕事に追われています。せっかくの機会なので、グリッドシステムを中心とした大きな研究の枠組みが作れるように、頑張りたいと思います。



## 退職教員より

### 多くの学生との巡り合い、卒業生と仕事が出来た29年間

豊橋技術科学大学名誉教授・東京電機大学教授 渡邊 昭彦

・定年退職 この度、2008年3月31日に29年間お世話になった豊橋技術科学大学を定年退職し、東京電機大学大学院未来科学部建築学科教授（神田）に赴任しました。

・技科大創設時の眩しい白い壁と床 29年前は技科大が学生を採り初めて2年目で、先生も学生も全国から集り、真新しい建物と広場の白が眩しく、私も30代と若く、何か緊張感（私が）が在りました。

■赴任後の最初の10年 「3年間の走行距離は10万キロ」 生まれも育ちも東京で、東京の仕事を引きずり、東京家政学院町田新キャンパス計画、3年かかった横浜市女性フォーラム計画、横浜市職員研修センター計画等で、最初の10年間は毎週東名高速を往復し、車の3年毎の走行距離が10万キロを超えました。

「学生と研究室で行なった数々の競技設計」 新建築会館競技設計（優秀作品賞）や名古屋市生山分譲住宅設計競技（第一位入選、愛知建築事務所協会賞）は実現せず、三重県口腔保健センター競技設計（第一位入選）でやっと実現することが出来ました。この時期の終わりに愛知県図書館競技設計を学生と行い、1段階目の結果を待たずに英国2ヶ月間の長期「コミュニティスクール」調査に出発し、愛知県からの連絡で当時の紺野教授が私を必死に探した事が帰国後に分かり、惜しくも2段階目に進めず、佳作となりました。当選案より研究室案の方が優れていると今でも思い、計画に参加してくれた学生に申し分け無い思いで、退職記念講演で初めてその事を明かしました。当時の学生は今や40代、現在社会の第一線で活躍する姿は自慢でもあります。

■次の10年間 「いつか必ずその風が吹く」 豊橋に定着し、豊橋市や新城市等の各種計画に関わり、特に大幸財団の募集論文に出した「生涯教育の方法論—ソフトとハードの両面からの生涯教育方法論」で特選論文賞を頂き、新聞報道等がなされた縁で依頼された生涯学習計画の作成は、愛知県を初め、豊橋・豊川・新城・蒲郡市に関り、また関連して新城市の千郷中学校体育館・公民館等複合施設や豊橋市の東稜中学校の新設等の施設の計画へと発展しました。この時「人生は不思議で、一途にやっていたらいつかその風が吹く」という思いでした。

「卒業生と協働のデザインが地域に残る」 卒業した学生と一緒に仕事する楽しさはまた格別で、サイエンスコアの建物と豊橋シンボルロードの道路計画（道路の一部に芝生を組み込み、車止めがフラワーボックス）

と歩道橋を兼ねたレインボータワー計画等、卒業生との協働の建築等を地域に残すことが出来ました。

空間認知研究による「日本建築学会賞（論文）の受賞」第二期の10年間の終わりに、約20年間学生と共に継続的に行なってきた「建築空間の探索行動実験による分かり易さの研究」の大規模な病院等の空間を分かり易く計画する研究が、それまで静止的な空間認知の研究を、人が空間やサイン等を探索しながら目的室に到達するプロセスを捉えた動的な新しい空間認知の研究分野を開拓・確立したとして受賞しました。その後多くの研究者がこの分野に取り組み、第二の「いつか必ずその風が吹く」との思いでした。

■最後の10年間 「地方の文化が少し分かる」 最後の10年間は、もう少し広域に活動でき、北海道の網走市や上土幌町（帯広の近く）の生涯学習センターの計画に関わりました。両市町で冬には仕事の後はスキーを楽しみ、その後に「蟹の刺身」を初体験し、蟹の色が見る見る変わり、これが「本場の味」と知りました。地元の人々の「鹿狩の話」を聞き、「地方には地方でしか楽しめない生活が在り、これが地方の文化」と知りました。

「更に卒業生と協働のデザインを地域に残す」 設楽町の新設の設楽中学校計画でも「卒業生と一緒に計画」して、米国学校建築賞を含めて色々な賞を受賞し、地域に建築を残すことが出来ました。

「30年間のコミュニティスクール調査・研究」 約30年前に米国でコミュニティスクールを視察して以来（日本では学校複合又は学校開放施設）、ライフワークとして英・米・日の調査研究を行い、その必要性を論文や執筆で訴えてきました。そのライフワークが実って平成16年に日本にも学校運営協議会制度（通称コミュニティスクール）が法改正で導入され、一定の権限で地域が学校運営に参加出来るようになりました。これで第三の「いつか必ずその風が吹く」ことを体験出来ました。

■「学生・卒業生の上についていつかその風が吹く」 終りに29年間の学生や卒業生の皆様に「共に学べた楽しい思い出」に感謝をし、最後に、「頑張っていたら、卒業生1人1人の上についていつか必ずその風が吹く」時があると申し上げて終わります。「29年間本当に有難う御座いました」。



# 研究室だより

## 我ら地盤防災研究室

修士2年 村田 和也

皆様いかがお過ごしでしょうか。最近は朝晩の冷え込みが厳しくなり、秋を感じる季節になってきました。研究室で鍋パーティーでも開きたいな～と思ったりもしています。

さて現在の研究室は三浦均也教授を中心に、博士3名、修士3名、学部4名、留学生2名の総勢13名で構成されています。少々寂しい感じもしますが、1人1人の個性がとても輝いておりますので（先生も含め！）心配はいりません。とても楽しい毎日を過ごしております。

現在、特に力を入れている研究は、港湾施設の波浪に対する安定化問題において透水性コラムを用いた工法の開発です。昨年は研究室メンバー全員で北海道石狩湾へ実験に行ってきました。イクラの味もさることながら、実験を手伝うことで、他のメンバーの研究内容を知るとはとても大切だと感じました。三浦研究室では、自分の研究テーマに関係なく他の実験に参加することも大きな特徴のひとつです。また今年度はこのテーマに対して（独）鉄道建設・運輸施設整備支援機構から研究費がついたため、一段と気合を入れてい

かねばなりません。

その他の研究テーマとして、斜面の三次元安定解析、構造物の振動特性を考慮した地震時滑動量推定の検討、アルミ棒積層体モデルによる補強土壁の安定性の検討などがあります。これから年末に向け一段と忙しくなる時期ですが、我ら地盤防災研究室一丸となって頑張りたいと思います！



## 建設工学同窓会収支報告

建設工学同窓会 役員 細田 智久（18期生）

平成19年9月1日から平成20年9月1日までの建設工学同窓会の収支決算

名 目	金 額
<b>■残 金</b>	
平成19年9月1日現在	1,906,092
<b>■収入の部</b>	
全学同窓会からの会費の分配金	610,000
預金利息	2,495
建設工学同窓会名簿購入希望者からの振込金	3,000
<b>■支出の部</b>	
全学同窓会報発送作業等費用	46,200
全学同窓会報郵送用封筒等印刷費	40,920
全学同窓会報郵送費用	146,810
<b>■残 金</b>	
平成20年9月1日現在	2,287,657

# 第七工学系

## 知識情報工学系より

### 学内近況報告

知識情報工学系 系長 増 山 繁

卒業生、修了生の皆様、お元氣でご活躍のことと思います。知識情報工学系の近況をご紹介します。本年度より増山が系長、岡田美智男教授が系長補佐を務めることになりました。

人の動きに関しては、情報メディア基盤センターに配置換えになっていた杉浦准教授が本年度4月より静岡大学に教授として栄転されました。

就職に関しては、企業の採用枠が昨年度に引き続き増え、就職状況が大変良くなっています（昨年度求人企業数223社、同本年度259社、昨年度求人倍率5倍、同本年度5.5倍）。9月末時点での就職の内定率はM2, 94%, B4, 100%です。求人企業も関東、中部、関西の上場企業が多く、また業種も情報、電気、機械、化学など多岐に渡っています。OBの皆様のご活躍の賜物と厚く感謝申し上げます。なお、ありがたいことにグローバルCOEのRA（リサーチアシスタント）として経済的援助を受けられるため、博士課程進学希望者は増加しています。

計算機と情報通信が社会のあらゆる分野に広く深く浸透していることから、情報系の人材はこれからますます必要になります。実際、来学された採用担当者など、企業の方から、情報系の人材が不足しているということをよく耳にします。知識情報工学系は今後とも、基礎から応用までの幅広い情報関連分野の最先端の研究を先導的に切り拓いていくとともに、社会で活躍できる情報系人材の育成に鋭意、取り組んでいきます。一昨年プログラミングに関する実習科目を見直し、平成19年度からは多様な背景を持つ学生に、より適切に対応した新しいカリキュラムが実施されています。本年2月にIPA（独立行政法人情報処理推進機構）からの「高度IT人材育成に係る実態調査」対象である10大学のひとつとして本学では知識情報工学系に対してヒアリング調査が行われました。他の大学は旧帝大など超一流のところが大半なのですが、調査員から「ここは他の大学に比べきちんとしたIT教育をやっている」との講評をいただきました。もちろん、まだまだ改善の余地は大きいので、PDCAサイクルによる継続的改善を行っていく所存です。

また、本学、本課程が中心となって申請した「次世

代ロボット創出プロジェクト―地域や世代間の協働による創造的・実践的かつ指導的技術者の育成―」（豊田高専、岐阜高専、京都造形芸術大学、大阪芸術大学と共同申請）が文部科学省産学連携による実践型人材育成事業（平成19年～21年度）に採択され、ソフトウェア技術や機構設計、プロダクトデザインなど様々な専門分野とのコラボレーションにより、次世代ロボットの企画立案からプロトタイプ制作、外部展示までを行う、ユニークな教育プログラムを進めているところです。その成果を踏まえ、本年2月に第1回シンポジウムを開催し、学外から82名、学内も含めると100名強の参加者を得ました。また、進歩が早くめまぐるしく変化するIT技術の最先端を企業での研修などで学び、実験、プログラミング演習などの教育に反映させるため、若手教員先端IT研修を20年度から開始しました。今年度は2名の教員が企業にて1週間程度研修を受けることになりました。

末筆ですが、同窓生の皆様の今後の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

#### 教職員一覧及び学生現員（平成20年9月現在）

##### [情報科学分野]

教 授：磯田定宏、増山 繁、石田好輝  
准 教 授：河合和久、市川周一、村越一支  
助 教：相田 慎、酒井浩之、原田耕治

##### [機能情報工学分野]

教 授：新田恒雄、堀川順生、岡田美智男  
准 教 授：金澤 靖、北崎充晃\*  
講 師：桂田浩一  
助 教：杉本俊二

##### [分子情報工学分野]

教 授：関野秀男、高橋由雅  
准 教 授：栗田典之、後藤仁志  
講 師：加藤博明  
助 教：墨 智成、藤島悟志

##### [事務関係]

事務職員：佐野友子、河合奈穂子  
技術職員：小西和孝

##### [学生現員]

学 部：1年次 9名、2年次 14名、  
3年次 63名、4年次 55名  
修 士：1年次 49名、2年次 59名

\* 未来ビークルリサーチセンター所属

## 学生実験の近況報告

知識情報工学系(学生実験担当) 金 澤 靖

卒業生、修了生の皆さん、いかがお過ごしでしょうか。今回は近況報告の一つとして、皆さんが在学中に苦労されたであろう学生実験やプログラミングが現在どうなっているか、ご紹介いたします。

まずハードウェアの面ですが、前々回の機種更新から、当初のサーバ+端末という形態ではなく、ノート型のPC+サーバという形態になっています。このノートPCは1～3年生全員に1年間貸与する形を取っていますので、各自が実験以外にも自由に使えます。現在、貸与しているノートPCは、IBMのThinkpad X31で、Cygwinやeclipseなどのプログラミングの実習環境だけでなく、TeXはもちろん、OfficeやAcrobatなども入っています。現在、A棟などの講義棟でも無線LANが使えるようになっておりますので、実際に他の講義などにも利用している学生も多いようです。

次に、実験の内容ですが、3年生の知識情報工学実験においては、初心者に対してプログラミングの基礎を身に付けてもらうこと、また経験者に対しては、プログラミング能力の維持向上を図ることを目的として、1学期に「情報基礎」と「プログラミング基礎」の二つの新たなコースを設け、それぞれ初心者向けと経験者向けの二つのクラスを設定しました。初心者向けクラスではコンピュータの使い方から始めて、エディタの使い方やコンパイルの仕方、そしてプログラミングの初級を学びます。一方、経験者向けのクラスでは、ほぼ毎回出される課題を各自一人一人で行うことにより、復習から応用まで学びます。この形式は昨年度から始めましたが、実際に受講した学生に対するアンケートを見る限り、評判は良いようです。

もう一つ、特筆すべきこととして、昨年度から始まった「ものづくり技術者育成支援事業」に関するコース「次世代ロボット創出プロジェクト」も新設しました。このコースは、希望者が自らエントリーシートを提出し、審査を経て、参加が決まることになっており、従来のような受け身型のテーマではなく、自発的なテーマとなっています。更に、同学年かつ同課程の学生だけでなく、他学年や他課程の学生とも協働して取り組む体制となっています。

プログラミングについては、現在は、2学期にプログラミングAとしてJavaを学び、3学期にプログラミングBとしてコンパイラを作成することになっています。

以上のように、皆さんの学生時代と比べると、内容や実施方法が変わっております。学生実験としましては、今後も引き続き、それらを改善しようと考えておりますので、卒業生、修了生の皆様からもご意見など頂ければ幸いです。



## 研究室だより

〈情報科学分野〉

### 増山研究室の近況

知識情報工学専攻 修士2年 坂地 泰紀

卒業生・修了生の皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍なされていることと思います。今回は、増山研究室の近況についてご報告します。

現在、増山研究室には増山繁教授と酒井浩之助教のご指導のもと、学部生5名、修士課程5名、博士課程4名が日々研究に取り組んでいます。近年、増山研究室

では博士課程に進む学生が増えてきています。それに伴い、研究室での議論も白熱しております。

増山研究室では、アルゴリズム工学と自然言語処理の二つのテーマを中心に研究を行っています。アルゴリズム工学では、耐ビザンチン故障サーバやAGV(自動搬送車)群の運行制御、特にデッドロックの検出・回復の研究を行っています。自然言語処理では、複数

文書要約、レポートの剽窃部分の検出に関する研究、近年では特に交通事故原因表現の抽出、企業の業績要因表現の抽出や因果関係の抽出などのテキストマイニングに力を入れています。

また、進捗報告会や学部生を対象にしたゼミ、オンラインアルゴリズムに関するゼミ、機械学習に関するゼミを行っています。機械学習に関するゼミでは、C・M・ビショップ著の「パターン認識と機械学習」に出題されている問題を可能な限り全て解きながら進めています。

昨年度は修士学生2名がニューヨーク大学の関根聡研究准教授の元で研究を行ってきました。2名の修士学生は別々の時期にニューヨークに行き、スペイン人とのルームシェアリングを体験しました。現在も関根先生と共同研究を行っております。

増山研究室の観賞用植物も順調に増えています。挿し木を繰り返すことにより、各部屋の植物が増えています。今年、とうとう幸福の木に花が咲きました。研究室が出来て以来初めてです。しかし、この花は非常に臭く、誰かがキンチョールを撒き散らしたのかと思っ

らいです。幸福の木は十数年育てないと花を咲かせないため、花が咲くとその年は幸せになるといわれています。しかしながら、とても臭かったため、数十年の歳月をかけて咲いた花は一瞬にして刈り取られました。

最後になりましたが、皆様の今後の更なるご活躍を心からお祈りいたします。そして、豊橋近辺へ来られる際には是非、本研究室にお立ち寄りください。



## 〈機能情報工学分野〉

### 北崎研究室の近況

知識情報工学専攻 修士2年 中西 宏

卒業生、修了生の皆様、そして、北崎研究室OB、OGの皆様、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場でご活躍なされていることと存じます。本稿では、北崎研究室の近況について、ご報告します。

現在、北崎研究室には、学部生4名、修士生11名、博士生2名がおり、北崎准教授、繁柳特任助教(インテリジェントセンシングシステムリサーチセンター)、松崎研究員の指導のもと、日々研究に励んでいます。

本研究室では、人間の知覚・認知機能の科学的解明をテーマに研究を行っています。方法として、心理物理実験、認知実験、脳機能計測を行い、統計解析、モデル構築、理論構築を行います。特に、未来ビークルのための科学、知覚的リアリティのための科学、インテリジェントヒューマンセンシングのための科学、の3つのテーマを軸に活動しています。それぞれが積極的に学会、研究会などで成果を発表し、研鑽を積んでおります。今年もアメリカへの留学、論文投稿、国際学会での発表などがありました。また、7系堀川先生の研究室、4系中内先生の研究室と合同で勉強会を開くなど、非常に意欲的に取り組んでいます。それもこれも、諸先輩方に研究の礎を築いていただいたおかげだと実感しております。

また、新たに始まった研究としては、これまでの研究成果を生かし、脳で機械を動かす、BMI(ブレイン・マシン・インターフェース)の開発にも取り組み始

めました。これはメディアでも取り上げられ、学生の(もしかしたら教員も?)研究意欲を非常に高めました。

研究だけではなく、息抜きにレクリエーションを行い、交流を深めています。今年の夏は田原町の海でバーベキューをしました。集合場所に来ず、先に海水浴をはじめている人、なぜかアボガドを買すぎる、などのハプニングはありましたが、とても楽しくいい思い出になりました。

豊橋近辺に来られることがありましたら、ぜひ研究室にお立ち寄りください。あの先輩は今ごろどうしているかなあと、よくみんなで話していますが、当人不在なので、結論があらぬ方向に収束してしまいます。





近況報告、厳しい社会のお話をぜひ聞かせてください。  
北崎研究室一同、お待ちしております。

最後になりましたが、諸先輩方のますますのご発展  
を心よりお祈りいたします。

## 〈分子情報工学分野〉

### 関野研究室の近況

知識情報工学専攻 修士1年 伊井 隆 浩



卒業生、修了生のみなさま、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いにご活躍のことと存じます。関野研究室は現在、関野秀男教授を中心に墨智成助教、博士1名、修士5名、学部3名の計11名で活動しております。新しく入ってきた3人の学部生はいずれも素晴らしい個性を持ち、それぞれが積極的に活動しています。

それでは、研究活動の報告をさせていただきます。まず、研究室内では週1回セミナーでの発表を行っております。本年度は研究室にプロジェクターとスクリーンが導入され、ミーティングコーナーを設置することができました。これにより確実に定期的なセミナーを開催できるようになり、研究室のメンバー一同気持ちを新たにしております。また外部での活動も各学会、ワークショップ等への積極的な参加をしており、国際学会でポスターセッションを英語で行うなど、よりレベルの高い活動を心がけております。また毎年恒例の

輪講については、本年度は学部生の希望により夏休み中も時間を設けて輪講を行いました。輪講の内容が一昨年から昨年そして今年と、順調に進歩改善されていると感じております。

さて、本年度の研究以外の活動については、さしあたって夏の合宿のことを報告させていただきます。本年度の合宿は私が企画をさせていただき、静岡の大井川へ行ってまいりました。この夏はみなさまも周知の事情により、車での長距離移動は控えました。皆でSLの旅を楽しもうという趣向でしたが、別行動をとっていた関野先生はやむをえない事情でSLに間に合わなくなってしまったり、終点の駅から宿までの道で土砂崩れがあり急遽ルートを変更したりとトラブルに見舞われた合宿となりました。ちなみにせっかく予約したSLでしたので、先生以外のメンバーは先生を待たず、SLでの旅を満喫させていただきました。往路はこのように不測の事態が続いたため、乗り継ぎが悪く電車やバスを待つて駅で1時間近く待機することが数回ありました。帰るときには「30分しか待たなくていいのか」などと、普段の多忙な生活からは想像できないような発言まで飛び出しました。また、この時の学部生の発表は夕食、入浴をはさんで深夜にまで及び、最長記録を樹立しました。

最後になりましたが、みなさま社会人として多忙な日々をお過ごしのことと思います。また何かの機会に豊橋近辺へ来られることなどありましたらぜひ研究室にお寄りください。その際には、失礼を申しますが、「なんかしゃべれる」準備をして来ていただけたならば嬉しい限りです。

## 7系同窓会収支報告（H19年度）

### ■ 収入の部

項 目	平成19年度決算
前年度繰越金	4,756,829
会費（各系分配金）	410,000
預金利息	7,454
収入合計	5,174,283

### ■ 支出の部

項 目	平成19年度決算
会報経費	
会報発送費	146,580
会報発送作業費	28,515
原稿執筆御礼	10,000
名簿管理経費	10,000
小計	195,095
次年度繰越金	4,979,188
支出合計	5,174,283

# 第八工学系

## エコロジー工学系より

### 学内近況報告

系長補佐 平 石 明

エコロジー工学系同窓生の皆様方におかれましては益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。例年どおり、大学とエコロジー工学系の近況についてご報告いたします。

まず、大学では本年（2008年）の4月から榊佳之学長、稲垣康善理事・副学長（総括・附属図書館長）神野清勝理事・副学長（教育担当）の新しい執行部体制が始まりました。榊先生は日本のヒトゲノムプロジェクトのリーダーを務められた分子生物学者（前理化学研究所、東京大学教授）で、本学では工学の主流専門分野以外からの初めての学長です。副学長としては電気・電子工学系の石田誠教授とともにエコロジー工学系の菊池洋教授が就任されております。またエコロジー工学系からは田中三郎教授が学長補佐として就任されております。

次にエコロジー工学系関連の教員の異動と組織編成に関してですが、昨年11月に藤江幸一教授が横浜国立大学に転出されました。今年1月には南亘助手が退職されました。元エコロジー工学系教授、系長を務められた松為宏幸理事・副学長は任期満了につき、今年3月末で退任されました。退任後は本学の特別顧問を務められています。本年4月には、二又裕之助教が静岡大学へと転出されました。新任教員としては今年4月から環境創生分野に栗田弘史助手が、10月には東北学院大学から生命工学分野に山田剛史助教が着任されました。さらに10月には、辻秀人准教授が環境創生分野の教授として昇格されております。エコロジー工学専攻の大学院生は原則として本系の教員の研究室に配属されて来ましたが、2006年10月に設置された先端農業・バイオリサーチセンターでも同専攻の大学院生の受け入れを開始し、現在数名が三枝正彦特任教授の研究室（しんきん食農技術科学講座、2007年4月発足）で研究活動を行っています。また、同センターで7月から始まった「東三河IT食農先導士の養成事業」に伴い、九里徳泰研究員（現代GP担当）がセンターへ特任助教として異動されました。エコロジー工学系教員が多く参画し

ていた未来環境エコデザインリサーチセンターは、期限満了につき昨年度で活動を終了しました。

現在エコロジー工学系では、木曾祥秋教授を系長として生命工学分野、環境創生分野、生態環境システムの教育研究分野に所属する教員が、引き続き活発な研究活動を行なっております。連携研究室としては工学教育国際協力研究センターと前記の先端農業・バイオリサーチセンターがあります。本系教員の活発な研究活動を証明するかのようにより、それらの功績に対するいくつかの受賞がありました。まず、今年4月に田中三郎教授は、社団法人未踏科学技術協会超伝導科学技術研究会より「高温超伝導SQUIDを用いた食品内金属異物検査装置の開発」に対して「第12回超伝導科学技術賞」を授与されました。また、5月には廿日出好助教が、低温工学に関する学術・技術に関して活発な研究活動を行っている業績に対して、社団法人低温工学協会より「2008年度奨励賞」を授与されました。さらに、9月に高島和則准教授は、静電気学会から静電気・高電圧技術を核に、大気圧放電プラズマによる環境汚染物質の除去に関する研究ならびに一分子の操作・計測技術の開発に多大の成果を上げたことなどを評価され、「2008年度野口賞」を授与されました。

本学は現在、平成22年度の学科再編に向けて計画・調整の最終段階に入っております。計画ではエコロジー工学系は他の学系の一つと一っしょになると同時に、2つのコースに分かれるなど、既存の学系の中では最も影響を受けることになりそうです。教員の配置も含めて今年度中にはその概要が明らかになると思われれます。

以上、エコロジー工学系の近況をご報告いたしました。近く学科再編を控えている激動の時ではありますが、今後とも本系の教育・研究活動に一層のご高配・ご支援をいただきますようお願い申し上げます。末筆ながら、同窓生の皆様のご発展をお祈り申し上げます。

## 転出教員より

### 技科大での13年4ヶ月

(横浜国立大学・大学院環境情報研究院) 藤江 幸一

平成6年8月から19年11月までの間、エコロジー工学系にお世話になりました。エコロジー工学系が設置された平成5年度と今年度も授業を担当させていただきましたので実質は15年間になります。決して短い期間ではありませんし、自身にとっては旬の時期を技科大で過ごさせていただきました。貴重な時間を与えてくださったことに厚く御礼を申し上げます。



13年4ヶ月を振り返ったとき、忘れられないのが1997年9月26日(金)午後 のスマトラ島メダンでの出来事です。それを知ったのは翌27日(土)、早朝のソウルでのテレビニュースでした。事故の原因ともなった森林火災の煙でフライトが大幅に遅れ、藤江は28日深夜にメダンに到着、翌朝ご遺体と対面しました。その夜は、街はずれの日本人墓地にある小さな祠をお借りしての通夜となりました。遠く異国の地で、夜半過ぎまで激しく荒れ狂った雷雨を、薄暗い祠に安置された棺の傍らで体験しました。あれから11年が過ぎ、調査研究などのため毎年スマトラに出向いています。国際協力事業の途半ばで航空機事故によってスマトラに散った故大竹一友先生、故富村勉事務局長の御霊に合掌。

さて、再び横浜国大に籍を置いて、両大学の特徴を振り返ってみると、キャンパスの光景そのものが両大学を象徴しているように思われます。カラッと晴れ上がった空のもと、太陽から逃げ隠れできず、風通しも良いのが技科大キャンパスです。競争的環境での情報公開も進み、事務の皆様をはじめ多くの方々から強力なご支援・ご協力をいただくことができた技科大は特筆ものです。

対して、生茂ったタブノキ(榊の木)などによっても陽光と視界が遮られ、横浜駅から直線で僅か3キロにあるとは思えないのが横浜国大のキャンパスです。居心地が良いとも言えますが、地の利や知名度を活かしきれないように思えないのが残念なところではあります。

技科大での13年4ヶ月に学生、教職員、地域の皆様、高専の先生など、多くの方々めぐり合うことができました。往来の激しい大都市では味わえないお付き合いをさせていただくこともできたと思います。一期一会とならずに、これから何度でも皆様にお目にかかりたいものです。

技科大の、エコロジー工学系のますますの躍進をご祈念いたしております。

## 転出教員より

### 豊橋技科大での7年間

二又 裕之

皆さまいかがお過ごしでしょうか。私は、2001年4月に平石研の助手として赴任し、丸7年間エコロジー工学系にお世話になりました。現在は、静岡大学工学部へ異動し、新しい研究室の立ち上げ等にバタバタしています。豊橋技科大への赴任前は、海洋バイオテクノロジー研究所のポスドクとして、4年間岩手県釜石市に居りました。フェリーで仙台から名古屋に上陸し、車で豊橋まで来た事を思い出します。釜石から豊橋へ住むことになり、「近くに山がない」、「車が多い」、「コンビニやデパートがある」、「新幹線や市電がある」等々、豊橋を大都会だと感じたものでした。赴任直後の挨拶回りの途中、当時系長だった松為先生から、辞令交付書を「ああ、これ渡しておくね」と気軽な感じで手渡された時、「さばけた良いところだなあ」と感じた事を覚えています。当時のエコロジーは(も)若さに溢れた良い雰囲気、その中に身をおけたことは幸せでした。時折開催された若手教員(当時の助手や教務員の方々)の飲み会も楽しい思い出です(酔った勢いで家に押しかけられたり……)。ソフトボール大会の練習に、研究室で昼過ぎから4時間の練習など(平石先生が陣頭指揮でノック)、今思えば良い時代でした。在籍中に、COEプログラムが走り、また研究室では平石先生によるNEDOのプロジェクトが動き出すなど、大型プロジェクトに参画できたことも貴重な経験でした。研究面では、新しい挑戦もさせてもらい、幅と深みを持たせているように感じています。プロジェクト終了後、米国への留学の機会に恵まれました。異国での生活は、いろんな意味で予想を遙かに超えていましたが、充実することができ、新たな自信にもなりました。「やっぱ、研究っておもしろいよな!」と再認識できたことは、自分自身とても嬉しいことでした。ただ、留学が豊橋技科大での最後の期間になるとは……自分の事ながら予想外でした。



最後にりましたが、エコロジー工学系の先生方、また特に平石教授および平石研の学生諸氏に感謝の念と今後の発展を記しまして、筆を置きたいと思います。

## 退職教員より

南 亘

“豊橋技術科学大学，ロボコン優勝！”技科大のニュースを目にすると，とても懐かしく思う今日この頃です。思い起こせば，技科大のエコロジー工学課程に編入学し，大学院を経て職員として採用頂いて約10年間の月日を豊橋



で過ごしました。現在は，転職して日立建機株式会社に勤め始めています。大学職員として働いていた時に，同窓会の役員を拝命してクラブ活動への寄付などでロボコンの名前は見ていましたが，学生時代も含めて，その活動に関わることはありませんでした。今，会社では建設機械などの大きなロボットのようなものを作っていますので，もっと積極的に機械・ロボットのことなど勉強しておけば良かったと少し後悔しております。

現在の勤務状況について申しますと，大学で働いていたときは環境がガラリと変わりました。同じような研究・開発業務をしていますが，その結果の解釈に会社ではお金が付きまといます。例えばある現象を苦勞して理論的に解析して立証したとしても，「それでどうやって儲けるの？ そんなのには研究費は出せないよ。」と一蹴されたり，理論や現象の中身はいい加減でわかっていなくても儲かりそうなら，「よし！研究費をつけてやってみよう」といった具合です。ついつい大学の時と比べると，会社では実力（学力？）以上にそのアピール力，声の大きさ，実行力などが問われている気がします。昇進や経済的な成功だけが人生の成功だとは思いませんが，その為のスキルというものは学歴だけに依らない人間的能力が大きいと実感しています。しかし，これらの能力が高い方々と話をするとそのアピール力などの背景には，自己への学力に基づいた自信と，学力に基づいた創意工夫があることがわかります。孔子が“学んで思わざればすなわちくら罔し，思いて学ばざればすなわちあやう殆し”と説くように，学んでも考えない，考えても学ばなければ，やはり実社会では通用しないのでしょう。

近況のご報告として乱文になりましたが，近くにお越しの際にはぜひともご一報頂ければと思っています。

## 新任教員より

栗田 弘史

平成20年4月1日付けで，エコロジー工学系の助手として着任いたしました栗田 弘史（くりた ひろふみ）です。私は高専卒業後，本学エコロジー工学課程に編入学，さらに修士課程を経て博士



後期課程を今年3月に修了し，現職に着任いたしました。豊橋に来たのが平成13年4月ですので，はやいものでもう8年目になります。それにしてもこのような形でエコロジー工学系同窓生の皆様にご挨拶することになるとは夢にも思いませんでした。学生の中の7年間は8系の先生方や数多くの先輩・後輩・同級生の皆様にお世話になりました。まずはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。豊橋にきたばかりの頃を思い返すと，大学周辺の独特なおいや，朝8:30から夕方5:30までみっちり詰まった時間割や課題・レポートなどに慣れるまで大変だったことが思い出されます。現在は鼻が慣れてにおいもそれほど気にならないほどになっていますが，これまでと立場が変わり自分の研究だけでなく，学生実験など教育にも力を注ぐことが求められるようになりました。とりわけ4月に着任したばかりの頃は戸惑いもあり，振り返る間もなく時間が過ぎていきましたが，暑い夏を越して少しは慣れて落ち着いてきたかなというところです。

研究面では，DNAの1分子蛍光観察・1分子操作とDNA-タンパク質間相互作用の1分子動態解析を引き続き行っています。今後はこれらの研究をさらに発展させるとともに，新しい分野にもチャレンジしていきたいと考えています。これまでは学生として技科大でお世話になってきましたが，今後は微力ながら本学の発展に貢献できればと思います。まだまだ慣れない部分も多く，先生方，学生の皆さんにご助力いただく日々が続いておりますが，どうぞご指導ご鞭撻のほどよろしく願い申し上げます。

# 研究室だより

## 〈環境創生研究分野〉

### 大門研究室

大 門 裕 之 (平成10年9月からエコロジー工学系に参入)

ますますご健勝にてご活躍のことと存じます。これを大阪弁では、「もうかってまっか?」となるのでしょうか。

藤江教授が、昨年12月に横浜国立大学へ異動されました。これにより、エコロジー工学系設立当時に、藤江研究室から始まり、藤江・黄、藤江・胡、藤江・後藤、藤江・後藤・大門研究室を経て大門研究室となりました。

これまで、超臨界流体に特化した研究に専念してきておりましたが、現在は、生態恒常性の高い社会の構築を目指し、廃棄物リサイクル・バイオマス利活用技術の開発および評価を行っております。高温高压水や超臨界二酸化炭素を用いた研究から、豚の餌づくり、廃油用バーナーの開発、環境試料からキノン化合物やリン脂質脂肪酸の抽出手法の開発まで、節操もなく取り組んでおります。また、各市のバイオマスタウン構想にも携わっております。

社会に通用するために、人間力の養成(教養五科目の再確認)に力を入れております。部活動やサークル活動、アルバイト、あるいは福祉活動(ボランティアや献血)を奨励しております。それにより、縦社会

の必要性・実力主義ありき・人間関係の重要性について学んでもらっています。一方、よりハードな学生生活(長い研究室の滞在時間)を過ごすことにより、社会で24時間戦い続けられる精神力と体力づくりにも励んでおります。そのためか、飲み会の頻度も急増しております。

卒業生一人ひとりの社会でのご活躍が、今後のエコロジー工学系の最も大きな支援となります。益々のご発展を心より期待しております。これを大阪弁にすると「せいだいもうけて、少しは技科大に還元してや」です。



## 8系同窓会 会計収支報告

(平成19年4月~平成20年3月分)

項 目	金額 (円)
〈収入の部〉	
前年度繰越金	4,666,870
会費 (各系分配金)	470,000
預金利息	7,283
収入合計	5,144,153
〈支出の部〉	
会報発送費	82,018
次年度繰越金	5,062,135
支出合計	5,144,153

# 第九学系

## 人文・社会工学系より

### 学内近況報告

村松 由紀子

人文・社会工学系のメンバーは、山口誠教授を系長として、教育と研究の活動を元気に続けています。平成20年度は、印南洋先生が講師として加わりました。

#### 〈教職員一覧〉

##### [人文・社会工学系]

教授：山口 誠(系長：併)、山本 淳、浜島昭二、藤原孝男、宮田 譲、西村政人  
准教授：相京邦宏、渋澤博幸、中森康之、平松登志樹、David Levin  
講師：印南 洋

##### [語学センター]

教授：神野清勝(センター長：兼務)、山本 淳(副センター長：併)、伊藤光彦、小杉隆芳

准教授：田村真奈美

助手：鈴木聖子

##### [留学生センター]

教授：神野清勝(センター長：兼務)、浜島昭二(副センター長：併)、氏平 明  
准教授：加藤三保子、林 孝彦、村松由起子、吉村弓子

##### [体育・保健センター]

教授：安田好文(センター長)

准教授：佐久間邦弘

##### [未来技術流動研究センター]

教授：岩本容岳

##### [工学教育国際協力研究センター]

准教授：黒田清彦

准教授：池田則宏

教授、藤原孝男教授、平松登志樹准教授、渋澤博幸准教授をはじめ、修士課程4名、研究生8名、学部4年生1名で構成されています。今年度は、中国とベトナムからの研究生を中心に人数が大幅に増え、とても賑やかな研究室となっています。先日、函館で行われた地域科学の学会に多くの学生が参加しました。4日間の滞在を通じて学生各個人の研究への意欲を向上させ、また学生同士の交流を深めるよい機会となりました。

本研究室の研究分野は、経済学・経営学に関するものであり、その中心は政策論・計画論・経営管理論となっています。また、これらの主分野に工学的な考え方を取り入れた社会工学の確立を大きなテーマの一つとしています。研究内容としては、社会経済や環境の構造分析・将来予測、政策評価手法の開発及び政策や計画支援システムの策定を行っております。詳しくは研究室のホームページをご覧ください。

(<http://pm.hse.tut.ac.jp>)

学生の研究テーマとしては、「バイオベンチャーの創業戦略への金融工学への応用」、「中国における製造業の技術開発の戦略的提携に関する研究」、「ハイブリッド自動車等の次世代型自動車の登場による経済波及効果分析」などに取り組んでいます。

豊橋においでの際は研究室にぜひいらして下さい。職場での話など聴かせていただけると幸いです。最後になりましたが、先輩方の今後のより一層のご活躍を期待しております。

### 計画・経営科学分野の近況

#### 計画経営科学講座一同

修了生・卒業生の諸先輩方、いかがお過ごしでしょうか。それぞれの職場で大いに活躍されていることと存じます。

現在の計画・経営科学分野は、山口誠教授、宮田譲



# 第57回東海地区国立大学体育大会結果一覧

- 1 日 時 平成20年6月28日(土)・29日(日), 7月5日(土)・6日(日)・12日(土)・13日(日)  
 2 場 所 名古屋工業大学・豊橋技術科学大学・瑞穂陸上競技場外16会場  
 3 当番大学 名古屋工業大学・豊橋技術科学大学  
 4 成 績

(男子)

競技種目	大学名		愛教大		浜医大		静岡大		三重大		名大		岐大		豊技大		名工大		備 考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	2	8	7	2	1	10	4	5	3	6	5	4	8	1	6	3			
2 水泳	5	4	7	2	2	8	3	6	1	10	4	5	8	1	6	3			
3 硬式野球	2	6			1	8	5	2	3	4.5	3	4.5	5	2	5	2			
4 準硬式野球	3	5.5	2	8	3	5.5	5	2.5	1	10	5	2.5	5	2.5	5	2.5			
5 硬式テニス	5	2.5	4	5	5	2.5	3	6	5	2.5	5	2.5	1	10	2	8			
6 ソフトテニス	3	6	7	2	5	4	6	3	1	10	4	5	8	1	2	8			
7 バスケットボール	5	3	7	1	2	6	3	5			1	8	4	4	6	2			
8 バレーボール	4	5	7	2	2	8	5	4	6	3	1	10	3	6	8	1			
9 卓球	6	2			2	6	1	8	4	4	3	5	5	3	7	1			
10 バドミントン	5	4	8	1	1	10	3	6	4	5	2	8	7	2	6	3			
11 サッカー	1	10	2	8	3	6	5	4	6	3	7	2	4	5	8	1			
12 ハンドボール	1	8	4	4	6	2	7	1	3	5	2	6			5	3			
13 柔道	2	6			5	2	5	2	1	8	3	5	5	2	4	4			
14 剣道	3	6	8	1	6	3	4	5	2	8	1	10	7	2	5	4			
15 空手道	5	4	3	6	1	10	6	3	2	8	4	5	8	1	7	2			
16 弓道	5	2.5	5	2.5	3	6	2	8	4	5	5	2.5	5	2.5	1	10			
17 体操		0			3	4	5	2	2	5	1	6			4	3			
18 馬術	3	4			4	2	4	2	2	5	4	2			1	6			
19 アーチェリー	1	5			4	2	2	4	3	3	5	1							
20 少林寺拳法	2	2.5			4	1	1	4			2	2.5							
合 計 得 点		94		44.5		106		82.5		105		96.5		45		66.5			
男 子 順 位		4		8		1		5		2		3		7		6			

(女子)

競技種目	大学名		愛教大		浜医大		静岡大		三重大		名大		岐大		豊技大		名工大		備 考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	1	6	6	1	2	5	5	2	3	4	4	3							
2 水泳	1	8	5	3	6	2	3	5	4	4	2	6					7	1	
5 硬式テニス	5	2	4	4	1	8	5	2	3	5	2	6					5	2	
6 ソフトテニス	2	6		0	1	8	4	4	5	3	3	5		0					
7 バスケットボール	4	2	5	1	1	5	3	3			2	4							
8 バレーボール	1	8	7	1	2	6	4	4	5	3	3	5					6	2	
9 卓球	5	2			3	4	1	6	2	5	4	3					6	1	
10 バドミントン	2	6	6	2	5	3	4	4	1	8	3	5					7	1	
12 ハンドボール	2										1								オープン競技
13 柔道																			オープン競技
14 剣道	1	5			4	2	5	1	3	3	2	4							
15 空手道			1	5		0	4	2	2	4	3	3							
16 弓道	4	5	3	6	2	8	1	10	5	4	6	3		0					
17 体操					3				1		2								オープン競技
19 アーチェリー	2										1								オープン競技
合 計 得 点		50		23		51		43		43		47		0		7			
女 子 順 位		2		6		1		4		4		3		8		7			

\*種目別得点欄の「0」は順位算出からの除外による。

# 平成19年度 卒業・修了者の就職先一覧 (50音順)

平成20年5月1日現在

No	就職先	M	B	D
1	AIHO	1		
2	Al al BaytUniversity	1		
3	Armstrong International	1		
4	Bangladesh Atomic Energy Commission	1		
5	Bangladesh University of Engineering and Technology			1
6	CDS ㈱		1	
7	CSK システムズ		1	
8	DAMMAM COLLEGE OF TECHNOLOGY	1		
9	Department of Irrigation Ministry of water Resources	1		
10	Department of Roads	1		
11	FDK ㈱	1		
12	IAO 竹田設計	1		
13	IHI	1		
14	INAX	1		
15	JFE エンジニアリング㈱	1		
16	KDDI Thailand		1	
17	Klab ㈱	1		
18	LAMPUNG University			1
19	M・ZEC	1		
20	Malaysia International Shipping Corporation		1	
21	Marshall University			1
22	MHI エアロスペースシステムズ㈱	1		
23	Ministry of Rural Development	1		
24	MISC BERHAD		1	
25	Mongolian University Technology	1		
26	Municipality of Phnom Pench Cambodia		1	
27	NEC システムテクノロジー㈱		1	
28	NEC ソフト㈱	1		
29	NOK ㈱	1		
30	NSSLC サービス㈱	1		
31	NTT コムウェア㈱	1		
32	NTT ソフトウェア㈱	2		
33	NTT ファシリティーズ	1		
34	Perodua Manufacturing Sdn. Bhd.		1	
35	Pioneer Technology Malaysia Sdn Bhd.		1	
36	PT. Semen	1		
37	Spansion Japan ㈱	1		
38	Tanjungara University			1
39	TDC ソフトウェアエンジニアリング㈱	1		
40	TDK	1		
41	The Institute of Bioorganic Chemistry	1		
42	The University of Lampung			1
43	THK ㈱		1	
44	TIS ㈱		1	
45	TOTO ㈱	2		
46	TSP	1		
47	TYK	1		
48	UL Japan		1	
49	United Nations Development Programe	1		
50	University Sains Malaysia			1
51	VSN	1	1	
52	YKK AP ㈱	1		
53	アーク情報システム	1		
54	アートテクノロジー		1	
55	アール・アイ・エー	1		
56	アイ・シー・エス	1		
57	アイアイジェイテクノロジー	3		
58	アイコム㈱		1	
59	愛三工業㈱	1	1	
60	アイシン・エイ・ダブリュ㈱	1		
61	アイシン精機㈱	3		
62	アイセロ化学㈱	1		
63	愛知機械工業㈱	1		
64	愛知県経済農業協同組合	1		
65	愛知県庁	2		
66	愛知製鋼㈱	1		
67	旭化成エンジニアリング㈱	1		
68	旭化成ホームズ㈱	1		
69	旭硝子㈱	1		
70	朝日ソーラー㈱	1		
71	味の素冷凍食品㈱	1		
72	アスモ㈱	1		
73	アドバンテスト	1		
74	あまね設計事務所		1	
75	アルバック	1		
76	アルファシステムズ	1		
77	アルプス電気	1		
78	安藤建設㈱	1	1	
79	アンビシャス	1		
80	イクス・アーク都市設計	1		
81	石井鐵工所	1		
82	石原産業㈱	1		

No	就職先	M	B	D
83	イズミテック	1		
84	伊原電子工業㈱	1		
85	イビデン㈱	1		
86	今治造船㈱		1	
87	エアニッポン㈱		1	
88	エーアイネットテクノロジー	1		
89	駅前探検倶楽部	1		
90	オークマ㈱	1	1	
91	大林組	3		
92	岡村製作所	2		
93	奥村組	1		
94	小野潤器	1		
95	オムロン㈱	2		
96	オルガン㈱			1
97	カネツ商事㈱		1	
98	㈱ニューフレアテクノロジー			1
99	㈱柳伸建築設計事務所			1
100	川崎重工工業㈱	2		
101	カワサキプラントシステムズ	1		
102	関西電力㈱	1		
103	関西ペイント㈱	1		
104	関東化学㈱			1
105	キーポート・ソリューションズ			1
106	キャタラー	1		
107	キャノン㈱	1	1	
108	キャノンファイナテック㈱	1		
109	九州三井アルミニウム工業㈱	1		
110	京セラ㈱	2		
111	京セラミタ㈱	1		
112	協同飼料㈱	1		
113	霧島造船㈱	1		
114	くろーばーはりきゅう整骨院			1
115	グローリー㈱	1		
116	建設技研インターナショナル	1		
117	構造計画アラスワン	1		
118	神戸製鋼所	1		
119	コワメックス	1		
120	国土交通省関東地方整備局		1	
121	コバルコ建機㈱		1	
122	小松製作所	3		
123	ザインエレクトロニクス㈱	1		
124	サムテック㈱		1	
125	サンエイ㈱		1	
126	三栄ハイテックス㈱	2		
127	サンエス		1	
128	サンエツ金属㈱	1		
129	サントリー㈱	1		
130	シーアールイー		1	
131	シーケー金属㈱	1		
132	ジーマ㈱	1		
133	シーメンス旭メディテック㈱		1	
134	ジェイ・エム・エス	1		
135	ジェイ・パワー・システムズ	1		
136	ジェイテクト	4		
137	ジオスター㈱		1	
138	静岡新聞社・静岡放送	1		
139	静岡大学			1
140	清水建設㈱	2		
141	社団法人地域問題研究所	1		
142	ジャパン・エア・ガシズ㈱	1		
143	しらかばハウジング		1	
144	シロキ工業㈱	1	1	
145	神鋼環境ソリューション	1		
146	神鋼電機㈱	1		
147	新日本工機㈱	1		
148	スクウェア・エニックス	1		
149	菅機械工業㈱		1	
150	スズキ㈱	8	2	
151	住友化学㈱	1		
152	セイコーインスツル㈱			1
153	セイコーエプソン㈱	5		
154	積水化学工業㈱	1		
155	積水ハウス㈱		1	
156	セコム㈱	2		
157	センチュリーホーム岡崎	1		
158	ソニーイーエムシーエス㈱	5		
159	ソニーエナジー・デバイス㈱	1		
160	ソニー㈱	1		1
161	ソニーケミカル&インフォメーションデバイス㈱	1		
162	ソニーセミコンダクタ九州㈱	1		
163	ダイキン工業㈱	2		
164	ダイコク電機㈱	1		



No	就 職 先	M	B	D
165	大東化学㈱			1
166	大同特殊鋼㈱	1		
167	大日精化工業㈱	1		
168	大日本スクリーン製造㈱	1		
169	大日本印刷㈱	1		
170	太平洋セメント㈱	1		
171	太陽精機㈱	1		
172	タイヨーエレクト㈱	1		
173	ダイワ精工㈱	1		
174	大和ハウス工業㈱	1		
175	高砂熱学工業㈱		1	
176	竹中工務店	2		
177	たけびし	1		
178	竹本油脂㈱		1	
179	タツタ電線㈱	1		
180	タマホーム㈱	1		
181	千葉大学			1
182	中国電力㈱	2		
183	千代田化工建設㈱	1		
184	テクノサイト	1		
185	テクノバン㈱	1		
186	デザインネットワーク		1	
187	電気技術開発㈱	1		
188	デンソー	7		
189	デンソーウェーブ	1		
190	デンソーテクノ㈱	2		
191	東海カーボン㈱	1		
192	東海ゴム工業㈱	1		
193	東海理化電機製作所			
194	東急建設㈱	1		
195	東芝	8		1
196	東芝インフォメーションシステム㈱	1		
197	東芝情報システム㈱		2	
198	東芝プラントシステム㈱	1		
199	東芝メディカルシステムズ㈱	1		
200	東芝ライテック㈱	1		
201	東電設計㈱	1		
202	東邦チタニウム㈱	1		
203	東洋ゴム工業㈱	1		
204	東陽テクニカ	1		
205	東洋濾機製造㈱		1	
206	東レ㈱		1	
207	東レエンジニアリング㈱	2	1	
208	東レ建設㈱	1		
209	図書印刷㈱	1		
210	戸田建設㈱	1		
211	トビー工業㈱	2	1	1
212	豊国工業㈱	1		
213	トヨタケララム	1		
214	豊田合成㈱		1	
215	トヨタ自動車㈱	3		
216	豊田自動織機	4		
217	トヨタ車体㈱	2		
218	トヨタすまいるライフ㈱	1		
219	豊田中央研究所			1
220	トヨタテクニカルディベロップメント㈱	1	1	
221	トヨタホーム名古屋㈱	1		
222	トヨックス		1	
223	豊橋技術科学大学	1	1	5
224	トンボ鉛筆	1		
225	中川装身具工業㈱		1	
226	名古屋工業大学			1
227	ナナオ		1	
228	ニコン	3		
229	ニコンシステム	1		
230	西日本電信電話㈱	2		
231	日揮㈱	2		
232	日建アクトデザイン	2		
233	日建設計	1		
234	日興システムソリューションズ㈱	1		
235	日新製鋼㈱	1	1	
236	ニッセイ	1	1	
237	新田塚医療福祉センター福井総合病院	1		
238	日東電工㈱	2		
239	ニデック	1		
240	日本アイピーエム中国ソリューション㈱	1		
241	日本板硝子㈱	1		
242	日本学術振興会			1
243	日本金属㈱		1	
244	日本金属工業㈱			1
245	日本住宅保証検査機構	1		
246	日本精工㈱	2	1	
247	日本製鋼所	1		
248	日本パーカライジング㈱	1		
249	日本光電工業㈱	1		
250	日本ビューレット・パッカード㈱	1		
251	ニュージェック	1		
252	ノリタケカンパニーリミテド	1		

No	就 職 先	M	B	D
253	バーンリベア		1	
254	バイオニア㈱	1		
255	パスコ	1		
256	長谷工コーポレーション	1		
257	パナソニックEVエナジー㈱	1		
258	パナソニックエレクトロニックデバイス若狭㈱		1	
259	パナソニックコミュニケーションズ	1		
260	パナソニックストレージバッテリー	1		
261	ハネマツ		1	
262	浜松市役所		3	
263	浜松信用金庫		1	
264	浜松ホトニクス㈱	1		
265	バンドン工科大学			2
266	東日本旅客鉄道㈱		1	
267	日立アドバンストデジタル	1		
268	日立オムロンターミナルソリューションズ㈱	1		
269	日立化成工業㈱	1		
270	日立建機㈱	1		
271	日立コミュニケーションテクノロジー	1		
272	日立情報システムズ	1		
273	日立製作所	10	1	
274	日立ソフトウェアエンジニアリング㈱	2		
275	日立電子サービス㈱	1		
276	日立ハイテクノロジーズ	1		
277	日野自動車㈱	1		
278	日星電気㈱	1		
279	ヒューマンリソシア㈱	1	1	
280	兵庫県庁	1		
281	フォレストコーポレーション		2	
282	福井工業高等専門学校			1
283	福井市役所		1	
284	福井村田製作所	1		
285	富士機械製造㈱		1	
286	フジクラ	1		
287	フジクリーン工業㈱			1
288	不二設計	1		
289	富士ゼロックス㈱	2		
290	フジタ	1		
291	富士通鹿島インフォネット	1		
292	富士通㈱	4		
293	富士通テン㈱	2		
294	富士フィルム㈱	1		
295	不動テトラ	1		
296	ブラザー工業㈱	4		
297	ブリヂストン	2		
298	プロセス		1	
299	北海道新聞社		1	
300	北海道電力㈱		1	
301	ポププリバットファスナー㈱			1
302	堀場製作所	2		
303	本田技研工業㈱	5	1	
304	松下電器産業㈱	4		
305	マツダ㈱	1		
306	三浦工業㈱	1		
307	三井共同建設コンサルタント㈱		1	
308	三菱自動車エンジニアリング㈱	1		
309	三菱重工環境エンジニアリング㈱	1		
310	三菱重工業㈱	5		
311	三菱電機㈱	3		
312	都開発㈱		1	
313	武蔵精密工業㈱	2		
314	メイテック		1	
315	名鉄不動産㈱	1		
316	メタウォーター㈱	1		
317	矢崎総業㈱	1		
318	ヤフー㈱	3		
319	ヤンマー㈱	2		
320	ゆいづ		1	
321	郵便事業㈱	1		
322	ユケン工業㈱		1	
323	ユニ・チャーム㈱		1	
324	ユニー㈱		1	
325	ユニチカ㈱	2		
326	夢真ホールディングス		1	
327	吉野ゴム工業㈱		1	
328	ライテック	1		
329	理化学研究所			1
330	リクルートスタッフィング㈱	1	1	
331	リケン	1		
332	リコー	2		
333	ルネサステクノロジ	3		
334	ローランド㈱	1		
335	ロキテクノ		1	
336	和興フィルタテクノロジー㈱	1		
337	羽咋郡広域圏事務組合消防本部			1
338	長谷川逸子建築計画工房㈱	1		

## 同窓会事務局より会員の皆様へ

### 同窓会総会開催のご案内

同窓会の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、同窓会では、来る平成21年4月25日（土）に、下記の要領で第9回豊橋技術科学大学同窓会定期総会を行うこととなりました。皆様のご来場をお待ちしております。

日 時 平成21年4月25日（土） 13時より  
場 所 豊橋技術科学大学D棟7階会議室 D-713

#### 議 題

1. 役員を選出
2. 平成17年-20年度事業報告および収支決算報告
3. 平成21年-24年度事業計画および収支予算案
4. 課程・専攻の再編に伴う諸対応について

なお、当日欠席される方は同封の委任状に記名押印の上、同窓会までご返信をお願いします。委任状は住所変更通知書としてもご活用ください。

## ・・・・・・ 同窓会事業報告および予定（平成19年度～平成20年度）・・・・・・

### 同窓会報の発行

同窓会会報第25号を平成19年12月に発行・送付いたしました。印刷部数は9500部、うち9000部を会員に発送、残りは学内関係者への配布、会報担当、事務局および各系役員の保管、予備としました。平成20年度は、10000部の発行を予定しております。

### 卒業記念パーティーの開催

平成20年3月21日に、豊橋勤労福祉会館（アイプラザ豊橋）にて行われた大学院修了式・学部卒業式後に、同会館体育館にて学友会と共催で卒業記念パーティーを開催いたしました。平成20年度も例年通り開催する予定です。

### 学生活動への支援

本学学生課と共同で学生活動支援（クラブ活動援助）を行いました。詳細は本文をご参照ください。

### 役員会の開催

平成20年4月19日に、大学D棟、一系会議室において役員会を開催し、昨年度の活動報告ならびに本年度の活動予定等について話し合いました。詳細は、議事録（<http://www.tut-ob.org/gijiroku.htm>）をご覧ください。

### 榊学長との懇談

平成20年4月19日に、榊学長（本会名誉顧問）と今泉同窓会会長、佐藤副会長、感本副会長、事務局担当者との懇談を行い、大学の現状と将来展望などについて意見交換を行いました。

### 平成20年度同窓会役員（平成20年4月現在）

会 長 今泉敏之（中央発條株式会社）  
副会長 感本広文（豊橋技科大機械システム工学系）  
副会長 佐藤裕久（豊橋技科大物質工学系）  
事務局 安部洋平（豊橋技科大生産システム工学系）

機械システム工学系（1系：名簿）	感本広文，関下信正，山本高久
生産システム工学系（2系：事務局）	戸高義一，今村 孝，安部洋平，山田基宏，野田善之，前野智美
電気・電子工学系（3系：会計）	稲田亮史，村上義信，桶真一郎，河野剛士
情報工学系（4系：HP & ML）	向井智彦，山本一公
物質工学系（5系：会報）	武藤浩行，大北博宣
建設工学系（6系：総会・役員会）	柴田良一，浅野純一郎，谷 武，細田智久
知識情報工学系（7系：援助活動）	藤島悟志，酒井浩之，加藤博明，山田 実
エコロジー工学系（8系：援助活動）	東海林孝幸，栗田弘史

名誉顧問 豊橋技術科学大学学長 榊 佳之

\* 各役員へのメールは、admin\_#@tut-ob.org #に系番号を入れてください。  
（たとえば、1系なら、admin\_1@tut-ob.org）

本年度より役員のメールアドレスが変更になりました。御注意下さい。  
（admin-#@tut-ob.org → admin\_#@tut-ob.org）

## 会費納入のお知らせ

本会の会費は、平成4年12月から終身会費制となりました。つきましては、平成5年3月以降の卒業・修了生で入会費(5,000円)または、終身会費(10,000円)が未納の方は、該当する系の振込先へ納入くださいますようお願い申し上げます。

**1系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 791348  
加入者名 豊橋技科大第1工学系同窓会

**2系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 773671  
加入者名 豊友会

**3系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884432  
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

**4系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884432  
加入者名 豊橋技術科学大学3・4系同窓会

**5系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 791362  
加入者名 物質工学系同窓会

**6系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 813330  
加入者名 建設工学同窓会

**7系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884420  
加入者名 豊橋技術科学大学7系同窓会

**8系：**三井住友銀行 豊橋支店 普通預金  
口座番号 884418  
加入者名 豊橋技術科学大学8系同窓会

## 住所変更手続きのお願い

同窓会報を発送する際、「宛先不明」となってこちらへ返送される冊数が年々増加傾向にあります。転居の際や自治体合併などの影響で住所が変更された際には、同窓会事務局へハガキまたは封書にてご一報下さるようお願い申し上げます。また、ホームページ上(<http://www.tut-ob.org/address.htm>)でも、住所変更用フォームを利用して、電子メールで手続きができますので、こちらもご利用下さい。

同窓会事務局では、下記の個人情報管理ポリシーに基づき、同窓会員の皆様の個人情報の安全管理に努めております。同窓会名簿のより一層の充実にご協力をお願いいたします。

### 同窓会 個人情報管理ポリシー

- ・同窓会員の個人情報は、担当の同窓会役員が責任を持って管理します。
- ・個人情報の開示依頼があった場合には、依頼者の身元および依頼理由を確認し、必要とする情報のみを開示します。なお、原則として、同窓生および大学関係者以外には開示しません。

※個人情報の非開示をご希望の方は、同窓会事務局または各系役員までご連絡下さい。

### 同窓会報への広告

掲載広告を募集しております。詳しくは同窓会事務局までお問い合わせ下さい。なお、広告によって発生したトラブルなどにつきましては、同窓会では一切の責任を負いません。

# ＊豊橋技術科学大学同窓会会則＊

## 第1章 総則

第1条 本会は、豊橋技術科学大学同窓会と称する。

第2条 本会は、本部を豊橋技術科学大学内に置く。

第3条 本会は、会員相互の親睦を図り、豊橋技術科学大学の発展に寄与することを目的とする。

## 第2章 事業

第4条 本会は、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 会員名簿の発行
- (2) 会報の発行
- (3) 総会の開催
- (4) その他、本会の目的を達成するために必要とされる事業

## 第3章 会員

第5条 本会は、次の会員をもって組織する。

- (1) 正会員 豊橋技術科学大学にかつて学籍を置いた者
- (2) 準会員 豊橋技術科学大学に現在学籍を置いている者
- (3) 特別会員 豊橋技術科学大学の現職及び退職教官
- (4) 賛助会員 本会の目的を賛助する個人または法人で、理事会において推薦された者

2 本会会員は、その所在を変更の都度、本会に通知する義務を負う。

## 第4章 組織

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 名誉顧問（豊橋技術科学大学学長）
- (2) 会長 1名
- (3) 副会長 2名（庶務担当）
- (4) 理事 原則として各系2名
- (5) 顧問 若干名

第7条 本会の役員を選出は、次の各号に定めるところにより行う。

- (1) 名誉顧問は、現豊橋技術科学大学学長とする。
- (2) 会長、副会長は、正会員のうちから理事会の推薦を得て会員の承認を得る。
- (3) 理事は、正会員のうちから理事会が推薦した者及び会長の委嘱による者とする。
- (4) 顧問は、役員経験者もしくは特別会員のうち理事会において推薦された者とする。

第8条 本会役員は任期は2年とする。但し留任は妨げないものとする。

第9条 本会の議決機関として理事会及び総会を開催する。

## 第5章 役員

第10条 会長は、本会を代表し、会務を総括する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、その職務を代行する。

3 理事は、理事会において意見を述べ、事務局及び本会運営の責務を負う。

4 名誉顧問および顧問は、本会の運営について助言を与え、会長の要請に応じて本会の会務に出席し意見を述べることができる。

第11条 理事は、本会の次の具体的な業務の実行を担当する。

- (1) 庶務
- (2) 会計
- (3) 会報の編集、発行
- (4) 理事会、総会など重要な会務の開催及び召集
- (5) 会員名簿の管理

(6) 監査

(7) その他、本会の事業全般

2 各業務責任者は理事が担当し、業務遂行する。

## 第6章 理事会

第12条 理事会は、第6条に定められた役員により構成される。

第13条 理事会は、会長の要請により庶務担当が開催の責務を負う。

第14条 理事会は次の事項を審議する。

- (1) 本会の事業の運営に関する事項
- (2) 事業報告及び決算報告
- (3) 事業計画案及び予算案
- (4) 賛助会員の推薦に関する事項
- (5) その他、本会の運営に関する議案

第15条 理事会の議決は、理事会に出席している役員の過半数の賛成を必要とし、可否が同数のときは、議長が決める。理事会の議長は会長が務める。理事会に欠席した役員の議決は、出席している役員の総意に委ねたものとみなす。

## 第7章 総会

第16条 総会は、定期総会と臨時総会とし、会長が召集する。

2 定期総会は、4年に1回開催することを原則とする。

3 臨時総会は、会長が、その必要を認めた時、開催する。

4 会長は、総会を召集するとき、事前に文書で正会員に通知しなければならない。

第17条 総会は次の事項を審議し、承認または議決する。

- (1) 会則の制定・改廃
- (2) 事業計画及び収支予算案
- (3) 事業報告及び収支決算案
- (4) その他、本会の運営に関し重要な事項

第18条 総会の議事は、出席正会員の過半数で決め、可否が同数のときは会長が決める。議長は、会長が努める。

## 第8章 会計

第19条 本会の運営に必要な経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。但し、必要に応じ、理事会での議決、総会での承認を得て臨時費を徴収することができる。

第20条 本会の正会費は、次のとおりとする。

- (1) 入会金 5,000円
- (2) 終身会費 10,000円

2 会費の納入は入学時に一括して行う。在学中は、準会員としての資格を得る。

第21条 既納の会費は原則として返納しない。但し、準会員が、卒業もしくは修了以前に学籍を離れる場合に限り、半年以内に請求があれば、返納する。その場合、会員資格を失う。

第22条 本会の会計年度は、4月1日に始まり翌年3月末日に終る。

## 第9章 雑則

第23条 本会会則の改訂は、理事会の議決を経て総会の承認を必要とする。

第24条 本会会則施行に必要な事項は、理事会の議決を経て会長が定める。

## 付則

1 本会則は、平成4年12月19日の総会において会則改訂の承認を得て、平成4年12月20日から施行する。

2 平成4年度及び5年度在学学生は、第20条における会費の納入を卒業、修了時に一括して納入する。

## 同窓会平成 19 年度収支報告および平成 20 年度予算案

項 目	平成 19 年度予算案	平成 19 年度決算	平成 20 年度予算案
<b>■収入の部</b>			
前年度繰越金	11,040,058	11,040,058	5,801,776
入会金	2,000,000	145,000	2,000,000
会費	4,000,000	290,000	4,000,000
預金利息	5,000	16,478	10,000
会報広告費	80,000	80,000	80,000
小計	6,085,000	531,478	6,090,000
収入合計	17,125,058	11,571,536	11,891,776
<b>■支出の部</b>			
会報経費	825,000	855,000	870,000
役員会経費	100,000	43,000	65,000
庶務経費	50,000	28,630	50,000
卒業記念パーティ援助金	250,000	250,000	250,000
学生活動援助金	500,000	500,000	500,000
Web 関連経費	53,130	53,130	53,130
各系への配分金	4,000,000	4,040,000	4,000,000
30周年記念事業協力金	100,000	0	0
小計	5,878,130	5,769,760	5,788,130
次年度繰越金	11,246,928	5,801,776	6,103,646
合計	17,125,058	11,571,536	11,891,776

# 学生活動への援助報告

現在同窓会では、同窓会活動の活性化・効率化を目的に大学との連携強化を進めております。その一環として、2006年より大学運営委員会のひとつである学生生活委員会と共同で「学生活動援助」を行っております。同窓会では、会員の皆様のご理解、ご協力を賜りながら、今後も学生活動に対して積極的な援助を続けたいと思っております。

## バドミントン部

エコロジー工学課程 4年 越智 明德

この度はバドミントン部に援助をしていただき誠にありがとうございます。部員一同より心からお礼申し上げます。今回の支援金はシャトル（羽）代として使わせていただきました。

僕たちの団体では、皆が各種大会に積極的に参加して日々の向上を努めています。その成果として、今回の9月に開催されたリーグ戦では参加した技科大2チーム共に部内優勝を飾る事ができました。

最近では石油の値上がりに伴ってシャトルの料金も上がってきており、練習でのシャトル消費と予算の兼ね合いに四苦八苦していたのですが、今回の支援で多くのシャトルを購入する事ができました。これからは更なる技術向上と新人育成に力を注ぎ、東国体などで他の団体を引っ張っていけるように頑張りたいと思っております。今回のご支援、本当にありがとうございました。

## ラグビー部

エコロジー工学課程 4年 別府 賢隆

このたび学生課からの経費で、ラグビーボールを購入いただけることになりました。ラグビーボールはひとつひとつの値段が非常に高いです。ですから、部費で賄うのはかなり難しいです。

僕たちラグビー部は、現在、東海学生リーグの3部リーグの5位という成績です。2部昇格という目標をもとに日々努力していますが、部員の数が15人ぎりぎりであるため、年間の一人一人の金銭的負担が大きいです。ボールはもちろんのこと、遠征の際の交通費、保険の登録費、ラグビー協会への登録費、合宿費などなど、数え上げたらきりがありません。部員達をお金のことで不安にしたいくないという思いから、今回経費を申請致しました。

このたびラグビーボールを購入いただけることで、部員一人一人の負担が減り、メディカル用品などの別の経

費にまわすことが出来ます。非常に助かります。部員一同感謝しております。本当にありがとうございました。

## 弓道部

電気・電子工学課程 4年 瀧野 孝浩

この度は、弓道部に援助して頂き、誠にありがとうございます。援助金は弓の購入に当てさせていただきました。これまでは共用の弓が四本しかなく、自前の弓を持っていない人にはとても練習の際に不自由していました。しかし、この度の援助で弓をさらに四本購入でき、練習の不自由を軽減することができました。

弓道部は現在33名で活動をしています。練習は毎週水曜日と日曜日に野依八幡神社の弓道場で行っています。本年度から豊橋弓道連盟に加入し、市民大会に参加しました。市民大会の一般男子の部では、議長杯優勝、敬老射会準優勝・金的中、市民スポーツ大会優勝等をはじめ、多くの実績を残すことができました。今後も、大会や審査に積極的に参加していきたいと思っております。

これからも、支援していただいたことを忘れず、日々精進していきたいと思っております。

## 豊橋日曜学校

エコロジー工学課程 学部4年 林 恭平

この度は、豊橋日曜学校に援助をいただき、誠にありがとうございます。部員一同心よりお礼申し上げます。豊橋日曜学校は豊橋市とその周辺に住む知的障害を持った子どもとレクレーションなどを通して遊ぶボランティアサークルで、日曜日を中心に活動しております。1日の活動は全て学生によって企画・運営を行っており、安全面などに配慮しながら子どもたちを楽しんでもらえるように長い時間を掛けて準備しています。皆様からのご支援は企画・準備の活動に使用させていただきます。これからも皆様からのご支援に感謝の気持ちを忘れることなく精一杯活動していきたいと思っております。

## 自動車研究部

生産システム工学課程 4年 戎野 由展

自動車研究部に支援して頂き、誠にありがとうございます。支援物品は、車両製作のための工具と、記録、報告のためのカメラとさせて頂きました。

私たち自動車研究部は、全日本学生フォーミュラ大会に参戦するために日夜活動しております。全日本学生フォーミュラ大会とは、学生が企画・設計・製作したフォーミュラスタイルの小型レーシングカーで競技を行い、車の走行性能だけでなく、車両コンセプト・設計・コスト審査など、ものづくりの総合力を評価する大会なのです。今年開催された第6回大会では、日本大会初となるカーボンモノコックボディを採用した車両が評価されたことなどにより、総合成績10位達成、ならびに国土交通大臣賞をはじめ6つもの賞を受賞することができました。

今回のような好成績を残すことができたのは、チームメンバーの努力はもちろんのこと、皆様からのご支援によるものであります。そして、この結果に満足することなく、これからも精進して参ります。今後もご支援のほどよろしくお願い致します。



## JAZZ 研究会

森 健一郎

私たち、JAZZ 研究会は、JAZZ を中心とした音楽の演奏活動を行っています。

学内での演奏活動はもちろんのこと、学外などにセッションという形で出かけて演奏することもあります。今年度は、例年に比べて、精力的に外部団体に出かけ活動を行っており、来年度以降もこの勢いを保っていったら良いなと考えております。

JAZZ 研の演奏活動で、最大の特徴といえるのが、セッションであり、事前に楽曲を練習して合奏する形式ではなく、演奏直前に、楽曲を決めて、自分の感性に任せて

演奏する、ほかの音楽系サークルとは違う演奏が特徴であります。

また、技科大祭での模擬店として、JAZZ とともに、珈琲や軽食を提供する JAZZ 喫茶を毎年開催しており、来場されるお客様に好評をいただいております。ご来場いただくお客様をもてなせるように、おいしい珈琲を煎れられるようにすることや、お客様にくつろいでいただけるように、おいしいケーキやサンドイッチを作れるよう、日夜努力をしております。

今後も、ライブや、JAZZ 喫茶の営業など、JAZZ を通じての交流を深めようと思っております。

## 国際交流クラブ

生産システム工学課程 岡 亮太郎

この度は国際交流クラブを援助して頂き、誠にありがとうございます。援助金は企業訪問で使用する貸し切りバスの費用として使わせて頂きます。

私たち国際交流クラブは、大学内の留学生と日本人学生との関係を深め、留学生に日本の文化になじむ機会を多く持つてもらおうこと、ならびに留学生の生活のサポートを目的に活動しています。週2回、留学生を対象とした日本語教室や、月に1度、国際交流パーティなどを行っています。また、夏季に韓国人学生との交流や、市内の外国籍児童の勉強サポートなど多くのボランティア活動を行っています。

今回援助していただいた企業訪問は留学生を対象として年に2回行っています。毎回工場見学だけでなく、現場で働く技術者の方の話をお聞きし、質疑応答をする機会を与えて頂いております。企業訪問によって、留学生が日本で働くための足がかりになればと考えており、世界に展開する企業の技術者の方との交流は、グローバルな視野を持つ留学生にとって貴重な経験になると考えています。

今後は大学内だけに留まらず、市内の外国籍の方との交流の場を設け、日本人学生、留学生と市内の外国籍の方との関係をよりよくすることを目標とし、積極的に活動していきたいと考えています。

## バレーボール部

建設工学課程 4年 黒田 健資

この度は、我々バレー部に活動援助をして頂き、誠にありがとうございました。バレー部員一同、心よりお礼申し上げます。現在私たちは、修士11名、学部10名の



計22人(マネージャー1人含む)で活動しております。活動時間は毎週火、木、土の3日です。時には他大学との練習試合も行い、技術向上に努めております。

現在バレー部は、東海大学リーグの全6部中の4部に所属しております。春季、秋季リーグ戦と東海国立大学体育大会、ビーチバレーボールフェスタなど、精力的に大会に参加しております。今回いただいた援助物品ですが、どれも活動には欠かせなく、特にバレーネットとアンテナは公式戦のルール変更に伴い更新が必要でしたので、大切に使用させていただきたいと思っております。

今回の東海大学春季リーグ戦では7チーム中5位といまひとつの結果になりましたが、もっと上位にいける手ごたえを掴むことができたと思います。また、東海国立大学体育大会では8チーム中3位と、格上チーム相手に健闘することが出来ました。

個人もチームとしても充実してきているので、10月頭から始まる東海大学秋季リーグ戦では、優勝・3部昇格を狙えると自負しております。大会に向けて部員一丸となって練習に励んでいきたいと思っております。今後のバレー部の活躍にご期待ください。

## サッカー部

建設工学課程 2年 鈴木 駿介

この度はサッカー部に援助していただきまして誠にありがとうございます。援助金は練習用具やサポート用品の購入に使わせていただきました。

私たちサッカー部は毎週土曜日に全体練習、日曜日に試合を行っています。本来人数は多いのですが、学校生活が忙しい人が多いため集まりがあまり良くありません。そのため試合で人が足りず棄権ということも過去にありました。

今年はチームのモチベーションを高めるという意味も兼ねて新ユニフォームの制作を提案しました。背中に名前を入れて個人持ちのユニフォームを作ることでサッカー部の一員なんだという意識を持ってもらおうという意図です。本来部費は物品を買うために使いたい部分もあるのですが、物品を援助してもらえることによって個人の負担を多くせずにユニフォームを制作することができました。このユニフォームで臨んだ最初の大会である東国体では、久しぶりのベスト4に入ることができました。チームの一体感も高まっていたと感じました。

今年度の目標は、登録している豊橋社会人リーグで5部から4部に昇格することです。練習にますます尽力し力をつけて勝利を重ねていきたいと思っております。

## 陸上競技部

物質工学課程 4年 林 育生

この度は私たち陸上競技部に援助金を頂き、誠にありがとうございます。陸上部一同深くお礼申し上げます。援助金はハードル及び円盤の購入に充てさせていただきました。援助していただいたからには恥ずかしい結果は残せないで、一生懸命に練習し、東海インカレ、東海地区国立大学体育大会で1人でも多くの者が入賞できるようにがんばりたいと思います。

現在、私たち陸上競技部は9名と少ない人数で活動しています。私たちは東海学生陸上競技連盟に所属し、連盟主催の大会、各県の大会に積極的に参加しています。2008年3月には、東海学生陸上競技連盟の国際交流の一環として台湾遠征に1名参加し、大変貴重な体験をさせていただくことができました。

最近の大会では、3月の豊橋ハーフマラソンで2位入賞を果たし、地元の新聞で大きく取り上げられました。しかしながら、今年の東海地区国立大学体育大会では、男子のハンマー投で3位入賞だけに終わり、大変不本意な結果となってしまいました。しかし、昨年度に続き、本年度も全日本大学駅伝の東海学連選抜チームの一員として1名参加することができました。これも、皆様方のご支援の賜物だと思っております。

1人1人が一生懸命に練習し、自分の目標に向かって頑張っている陸上競技部の今後の活躍にご期待ください。

## 武道部

建設工学課程 4年 宇野 絢

この度は、武道部に援助して頂きまして、誠にありがとうございます。武道部一同、心より御礼申し上げます。

武道部は現在部員25名で活動しており、毎週水曜日と土曜日に稽古を行っています。この度ご援助いただきました物品は、日々の稽古や毎年開催させて頂いている武道部演武会での演武の向上のために使わせて頂きます。

皆様のご支援により、第4回演武会もたくさんの方にご来場頂くことが出来ました。演武会では武道部で稽古している「形」や「約束組手」、武器を用いた「古武術」などを披露いたしました。また、総合文化部の演劇部門や剣道部の方々にも出演して頂き、空手にとらわれず多くの演目でご好評を頂きました。

これからも武道部は日々稽古に精進して参ります。今後ともご支援のほど、よろしくお願いいたします。

## 大学創設 30 周年募金協力の御礼

ご存知の通り、本学は平成18年10月に大学創設30周年を迎え、すでに同窓会報においてもご報告してまいりましたように、記念式典の開催、記念誌発行等の各種記念事業を実施して参りました（関連写真：表紙 学生交流会館）。同窓生の皆様からの寄付金の一部は、陸上競技場照明灯の設置につかわせていただき、お蔭様で、平成20年1月28日に30周年記念事業陸上競技場用照明灯の完成式をとりおこないました（表紙：右上写真）。同窓会からは代表として佐藤同窓会副会長が出席いたしました。

募金に関しましてご理解、ご協力をいただきました同窓会会員の皆様には、紙面を借りて厚く御礼申し上げます（平成19年9月21日以降に募金いただきました皆様のリストは下記をご参照ください）。

平成19年9月21日から平成20年10月31日現在。（順不同・敬称略）

### 1系：

滝口 貢一 飯田 明由 一郷 正幸 梅舎 雅彦 大沼 誠 大野 裕之 作田 泰宣  
鈴木 賢太 中西 義人 中野 祐次 中村 嘉男 羽澤 知憲 羽田野 顕治 伴野 智昭  
細田 康司 北郷 博成 牧野 英俊 松本 幸大 間藤 忠明 許安 昭男 森 成広  
森 恒寛 山崎 博憲 山田 俊之 六軒 益成

### 2系：

池内 宏樹 石田 隆之 采女 利治 大松澤 亮 角谷 友二 加藤 崇道 上村 正樹  
木村 康宏 神崎 祥尚 小林 康彦 近藤 恭正 佐藤 一幸 角 英樹 駿河 貴之  
高野 博司 高山 剛将 滝 康嘉 戸野 直之 西岡 映二 西坂 晋 西田 勝一  
日名地 輝彦 平瀬 千裕 福増 秀彰 細井 一良 前川 和憲 益崎 真治 森山 竜也  
和田 浩孝

### 3系：

芦田 治 安海 貞二 飯嶋 浩和 石坂 道拡 市川 武彦 遠藤 正雄 太田 美幸  
大濱 吉紘 木下 裕文 木下 学 客野 貴広 須藤 稔 高松 秀樹 谷本 憲雅  
西岡 邦昌 西島 和樹 野地 英樹 野田 俊彦 野村 進吾 野村 秀雄 深井 雅之  
前田 俊博 馬庭 隆司 山口 一弘 渡辺 亮

### 4系：

岩神 崇博 大懸 浩陸 神山 齊己 清田 和誠 倉島 克則 小池 武 小牧 慎一郎  
酒井 利一 坂本 敏明 祖父江 真一 千葉 元 奈倉 良介 西崎 博光 西山 零士  
野崎 広志 長谷川 和男 平田 勝大 前田 三希緒 山岸 博志 吉田 幹夫 和氣 幸夫

### 5系：

伊藤 孝子 榎本 伸人 遠藤 章 逢坂 紀行 大山 求一 神村 基和 作田 晃司  
四分一 敬 菅原 真樹子 瀬田 篤 曾我 伝 高田 洋平 高浜 孝光 田中 覚  
趙 翔 冨永 浩史 豊田 昌宏 中西 章滋 西川 康生 野中 研司 服部 貞雄  
平井 千里馬 平野 正義 松岡 孝彦 山川 真人 山口 真 横田 裕美 横山 祐一

### 6系：

安藤 ふ季 稲田 寧 伊縫 憲幸 河野 美智子 岡本 欣吾 甘 長淮 金 豊博  
清田 晃 串田 義一 高橋 秀一 谷口 規子 種市 里美 中村 博志 西野 庄一  
藤根 六平 正田 要一 武藤 厚 山根 陽一 吉福 司

### 7系：

青木 一峰 池本 健介 奥本 文博 鎌田 光宣 倉井 利直 砂子 由佳子 関根 克聡  
長野 英二 伴 聡 平野 幸児 前田 祐希 水元 英詔 山本 雄大

### 8系：

池田 勇二 市成 剛 白井 昭久 鈴吉 香織 橋場 貴明 堀 史歳 高田 優子



図書館屋上よりA棟とB棟



図書館屋上よりC棟とD棟